

FANTOM 06 FANTOM 07 FANTOM 08

取扱説明書



本機を正しくお使いいただくために、ご使用前に「安全上のご注意」(P.2)と「使用上のご注意」(P.4)をよくお読みください。
お読みになったあとは、すぐに見られるところに保管しておいてください。

目次

安全上のご注意.....	2	エディット編.....	20
使用上のご注意.....	4	ゾーンをエディットする.....	20
PDF マニュアルのダウンロード.....	5	トーンをエディットする.....	20
ダウンロードはこちらから.....	5	エフェクトをエディットする.....	21
スタンドへの設置のしかた.....	6	シーンやトーンを保存する.....	22
FANTOM-06 / FANTOM-07 をお使いの場合.....	6	曲の順番にシーンを呼び出す (シーン・チェーン).....	22
FANTOM-08 をお使いの場合.....	7	サンプラー編.....	23
各部の名称とはたらき.....	8	パッドを押してサンプルを鳴らす.....	23
トップ・パネル.....	8	サンプルを再生し続ける (ホールド).....	23
リア・パネル (機器の接続).....	10	バンクを切り替える.....	23
電源を入れる／切る.....	11	サンプルを移動／コピーする.....	23
一定時間がたつと自動で電源が切れるようにする (Auto Off).....	11	サンプリングする.....	24
はじめに.....	12	シーケンサー編.....	26
基本操作.....	12	シーケンサーの構成について.....	26
本機の概要.....	15	シーケンサーを再生する.....	26
音の単位.....	16	パターンを録音する.....	27
エフェクト.....	16	エディット画面について.....	30
演奏編.....	17	グループの作成.....	31
音色を選ぶ (SCENE / TONE).....	17	ソングの作成.....	31
ゾーンを重ねる (レイヤー).....	17	コントロール編.....	32
鍵盤を2つの鍵域に分ける (スプリット).....	17	プラグイン・シンセを使ってライブ演奏する.....	32
音域を半音単位で高く／低くする (トランスポーズ).....	18	パソコンと接続する.....	32
音域をオクターブ高く／低くする (オクターブ).....	18	USB ドライバーを設定する.....	32
アルペジオ演奏をする.....	18	外部 MIDI 機器をコントロールする (EXT MIDI OUT).....	32
コード演奏をする (コード・メモリー).....	18	USB オーディオを使う.....	33
リズム・パターンを選ぶ／鳴らす.....	18	ZONE INT/EXT ボタンを設定する (Zone Int/Ext Control).....	33
テンポを変える.....	19	設定編.....	34
スライダー／コントロールつまみを使う.....	19	各機能の詳細設定をする (Menu).....	34
複数のゾーンの音量を同時に変更する (モーショナル・パッド).....	19	ユーザー・データをバックアップする (Backup / Restore).....	34
		工場出荷時の設定に戻す (Factory Reset).....	34
		主な仕様.....	35

安全上のご注意

火災・感電・傷害を防止するには

⚠ 警告と ⚠ 注意の意味について

 警告	取り扱いを誤った場合に、使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を表しています。
 注意	取り扱いを誤った場合に、使用者が傷害を負う危険が想定される場合および物的損害のみの発生が想定される内容を表しています。 ※物的損害とは、家屋・家財および家畜・ペットにかかわる拡大損害を表しています。

図記号の例

	⚠ は、注意（危険、警告を含む）を表しています。具体的な注意内容は、⚠ の中に描かれています。左図の場合は、「一般的な注意、警告、危険」を表しています。
	⊘ は、禁止（してはいけないこと）を表しています。具体的な禁止内容は、⊘ の中に描かれています。左図の場合は、「分解禁止」を表しています。
	● は、強制（必ずすること）を表しています。具体的な強制内容は、● の中に描かれています。左図の場合は、「電源プラグをコンセントから抜くこと」を表しています。

----- 以下の指示を必ず守ってください -----

⚠ 警告

完全に電源を切るときは、コンセントからプラグを抜く

電源スイッチを切っても、本機は主電源から完全に遮断されてはいません。完全に電源を切る必要があるときは、本機の電源スイッチを切ったあと、コンセントからプラグを抜いてください。そのため、電源コードのプラグを差し込むコンセントは、本機にできるだけ近い、すぐ手の届くところのものを使用してください。



Auto Off 機能について

本機は、演奏や操作をやめてから一定時間経過すると自動的に電源が切れます（Auto Off 機能）。自動的に電源が切れないようにするには、Auto Off 機能を解除してください（P.11）。



分解や改造をしない

取扱説明書に書かれていないことはしないでください。故障の原因になります。



個人で修理や部品交換はしない

必ずお買い上げ店またはローランドお客様相談センターに相談してください。



⚠ 警告

次のような場所で使用や保管はしない

- 温度が極端に高い場所（直射日光の当たる場所、暖房機器の近く、発熱する機器の上など）
- 水気の近く（風呂場、洗面台、濡れた床など）や湿度の高い場所
- 湯気や油煙が当たる場所
- 塩害の恐れがある場所
- 雨に濡れる場所
- ほこりや砂ぼこりの多い場所
- 振動や揺れの多い場所
- 風通しの悪い場所



指定のスタンドを使用する

本機の設置には、ローランドが推奨するスタンド（型番：KS-20X、KS-G8B、KS-10Z、KS-12）を使用してください（P.6）。



※ KS-G8B は FANTOM-08 のみ

不安定な場所に設置しない

本機の設置にスタンド（型番：KS-20X、KS-G8B、KS-10Z、KS-12）を使用する場合、ぐらつくような場所や傾いた場所に設置せず、安定した水平な場所に設置してください。機器を単独で設置する場合も、同様に安定した水平な場所に設置してください。



※ KS-G8B は FANTOM-08 のみ

スタンドへ設置するときの注意

取扱説明書の指示どおりに設置してください（P.6）。



正しく設置しないと、不安定な状態となって落下や転倒を引き起こし、けがをする恐れがあります。

⚠ 警告

付属の AC アダプターを AC100V で使用する

AC アダプターは、必ず付属のものを、AC100V の電源で使用してください。



付属の電源コードを使用する

電源コードは、必ず付属のものを使用してください。また、付属の電源コードを他の製品に使用しないでください。



電源コードを傷つけない

火災や感電の原因になります。



大音量で長時間使用しない

大音量で長時間使用すると、難聴になる恐れがあります。万一、聴力低下や耳鳴りを感じたら、直ちに使用をやめて専門の医師に相談してください。



異物や液体を入れない、液体の入った容器を置かない

本機に、異物（燃えやすいもの、硬貨、針金など）や液体（水、ジュースなど）を絶対に入れないでください。また、この機器の上に液体の入った容器（花びんなど）を置かないでください。ショートや誤動作など、故障の原因となることがあります。



警告**異常や故障が生じたときは電源を切る**

次のような場合は、直ちに電源を切って AC アダプターをコンセントから抜き、お買い上げ店またはローランドお客様相談センターに修理を依頼してください。

- AC アダプター本体や電源コードが破損したとき
- 煙が出たり、異臭がしたりしたとき
- 異物が内部に入ったり、液体がこぼれたりしたとき
- 機器が（雨などで）濡れたとき
- 機器に異常や故障が生じたとき

お子様がけがをしないように注意する

お子様のいる場所で使用する場合やお子様が使用する場合、必ず大人のかたが、監視／指導してあげてください。

落としたり、強い衝撃を与えたりしない
破損や故障の原因になります。

タコ足配線はしない

発熱、発火する恐れがあります。

海外でそのまま使用しない

海外で使用する場合は、お買い上げ店またはローランドお客様相談センターに相談してください。

注意**指定のスタンドのみ使用する**

本機は当社製のスタンド（KS-20X、KS-G8B、KS-10Z、KS-12）とのみ、組み合わせて使用できるように設計されています。他のスタンドと組み合わせて使うと、不安定な状態となって落下や転倒を引き起こし、けがをする恐れがあります。

※ KS-G8B は FANTOM-08 のみ

スタンドを使う前に安全を確認する

取扱説明書に記載の注意事項が守られていても、取り扱いによってはスタンドから本機が落下したりスタンドが転倒したりする可能性があります。使用にあたっては事前に安全を確認した上でお使いください。

電源コードはプラグを持って抜く

断線を防ぐため、必ずプラグを持って電源コードを抜いてください。

電源プラグを定期的に掃除する

電源プラグとコンセントの間にゴミやほこりがたまると、火災や感電の原因になります。

定期的に電源プラグを抜き、乾いた布でゴミやほこりを拭き取ってください。

長時間使用しないときは電源プラグを抜く

万一故障したとき、火災の原因になります。

電源コードやケーブルは煩雑にならないように配線する

足に引っかけると、本機の落下や転倒などにより、けがの原因になることがあります。

注意**上に乗ったり、重いものを置いたりしない**

転倒や落下によって、けがをする恐れがあります。

濡れた手で電源プラグを抜き差ししない
感電の原因になります。

移動するときはすべての接続をはずす

本機を移動するときは、電源プラグをコンセントから抜き、外部機器との接続をはずしてください。

移動するときの注意

(FANTOM-07 / FANTOM-08 のみ)

本機を移動するときは以下のことを確認したあと、必ず 2 人以上で水平に持ち上げて運んでください。このとき、手をはさんだり、足の上に落としたりしないように注意してください。

- 電源コードをはずす。
- 外部機器との接続をはずす。

お手入れするときは電源プラグをコンセントから抜く

コンセントから抜いておかないと感電の原因になります。

落雷の恐れがあるときは電源プラグをコンセントから抜く

コンセントから抜いておかないと故障や感電の原因になります。

接地端子の取り扱いに注意する

接地端子ネジは、お子様が誤って飲み込んだりすることのないよう取りはずした状態で放置しないでください。再度ネジを取り付ける際は、ゆるんではずれないように確実に取り付けてください。

使用上のご注意

電源について

- 本機を、インバーター制御の製品やモーターを使った電気製品（冷蔵庫、洗濯機、電子レンジ、エアコンなど）と同じコンセントに接続しないでください。電気製品の使用状況によっては、電源ノイズで本機が誤動作したり、雑音が発生したりすることがあります。電源コンセントを分けることが難しい場合は、電源ノイズ・フィルターを取り付けてください。
- AC アダプターは長時間使用すると多少発熱しますが、故障ではありません。
- AC アダプターは、文字が表示された面が下になるように設置してください。

設置について

- 本機の近くにパワー・アンプなどの大型トランスを持つ機器があると、ハム（うなり）を誘導することがあります。この場合は、本機との間隔や方向を変えてください。
- 本機をテレビやラジオの近くで動作させると、テレビ画面に色ムラが出たりラジオから雑音が出たりすることがあります。この場合は、本機を遠ざけて使用してください。
- 本機の近くで携帯電話などの無線機器を使用すると、着信時や発信時、通話時に本機から雑音が出ることがあります。この場合は、無線機器を本機から遠ざけるか、電源を切ってください。
- 極端に湿度の違う場所に移動すると、内部に水滴が付く（結露する）ことがあります。そのまま使用すると故障の原因になります。数時間放置して、結露がなくなってから使用してください。
- 鍵盤の上にものを置いたままにしないでください。発音しなくなるなど、故障の原因になります。
- 設置条件（設置面の材質、温度など）によっては、本機のゴム足が設置した台などの表面を変色または変質させることがあります。
- 本機の上に液体の入った容器などを置かないでください。また、表面に付着した液体は、速やかに乾いた柔らかい布で拭き取ってください。

お手入れについて

- 変色や変形の原因となる、ベンジン、シンナー、アルコール類は使用しないでください。

鍵盤の取り扱いについて（FANTOM-08 のみ）

- ペンなどで書き込みをしたり、印を付けたりしないでください。インクが表面のラインに染み込んで落ちなくなります。
- シールなどを貼ったりしないでください。粘着力の強いものでは、シールがはがれなくなったり、粘着剤によって変色したりすることがあります。
- ひどい汚れを落とすときは、研磨剤が入っていない市販の鍵盤クリーナーを使ってください。はじめは軽く拭くようにします。汚れが落ちないときは、傷がつかないように徐々に力を入れながら拭くようにしてください。

修理について

- お客様が本機または付属品を分解（取扱説明書に指示がある場合を除く）、改造された場合、以後の性能について保証できなくなります。また、修理をお断りする場合があります。
- 修理を依頼されるときは、事前に記憶内容をバックアップするか、メモしておいてください。修理するときには記憶内容の保存に細心の注意を払っておりますが、メモリー部の故障などで記憶内容が復元できない場合もあります。失われた記憶内容の修復に関しましては、補償も含めご容赦願います。
- 当社では、本機の補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）を、製造打切後 6 年間保有しています。この部品保有期間を修理可能の期間とさせていただきます。なお、保有期間を過ぎたあとも、故障箇所によっては修理可能な場合がありますので、お買い上げ店、またはローランドお客様相談センターにご相談ください。

その他の注意について

- 記憶した内容は、機器の故障や誤った操作などによって失われることがあります。失っても困らないように、大切な記憶内容はバックアップしておいてください。
- 失われた記憶内容の修復に関しましては、補償を含めご容赦願います。
- 故障の原因になりますので、ボタン、つまみ、入出力端子などに過度の力を加えないでください。
- ディスプレイを強く押したり、叩いたりしないでください。
- ケーブルを抜くときは、ショートや断線を防ぐため、プラグ部分を持って引き抜いてください。
- 周囲に迷惑がからないように、音量に十分注意してください。
- 演奏時の打鍵音や振動は床や壁を通じて意外によく伝わります。周囲に迷惑がからないように注意しましょう。
- 本機が入っていた梱包箱や緩衝材を廃棄するときは、各地域のゴミの分別基準に従ってください。
- 抵抗入りの接続ケーブルは使用しないでください。

外部メモリーの取り扱い

- 外部メモリーを使うときは次の点に注意してください。また、外部メモリーに付属の注意事項を守ってお使いください。
 - 読み込み中や書き込み中には取りはずさない。
 - 静電気による破損を防ぐため、取り扱う前に身体に帯電している静電気を放電しておく。

知的財産権について

- 第三者の著作物（音楽作品、映像作品、放送、実演、その他）の一部または全部を、権利者に無断で録音、録画、複製あるいは改変し、配布、販売、貸与、上演、放送などを行うことは法律で禁じられています。
- 第三者の著作権を侵害する恐れのある用途に、本製品を使用しないでください。お客様が本製品を用いて他者の著作権を侵害しても、当社は一切責任を負いません。
- 製品に内蔵、付属されたコンテンツ（音色波形データ、スタイル・データ、伴奏パターン、フレーズ・データ、オーディオ・ループ、画像データなど）の著作権は当社が保有しています。
- 製品に内蔵、付属されたコンテンツ（ただしデモ曲などの楽曲データは除く）を素材として、お客様が新たな作品を制作、演奏、録音、配布をするに関しては、当社の許諾を必要としません。
- 製品に内蔵、付属されたコンテンツを、そのまま、もしくは酷似した形態で取り出し、別の記録媒体に固定して配布したり、コンピューター・ネットワークを通じて公開したりすることはできません。

- ASIO は、Steinberg Media Technologies GmbH の商標およびソフトウェアです。
- 本製品は GPL/LGPL およびその他のオープン・ソース・ライセンス適用ソフトウェアを使用しており、お客様には、これらソフトウェアの個別の使用許諾または条件に従ってソースコードを入手、改変、再配布する権利があります。
本製品に使用されているオープン・ソース・ライセンス適用ソフトウェアのソースコードの入手を希望されるお客様は、弊社カスタマーサポートへお問い合わせください。
- 本製品には、イーソル株式会社のソフトウェアプラットフォーム「eParts™」が搭載されています。
- 本製品は、T-Engine フォーラム (www.tron.org) の T-License 2.0 に基づき μ T-Kernel ソースコードを利用しています。

- 本製品には、第三者のオープンソースソフトウェアが含まれています。

Copyright © 2009-2018 Arm Limited. All rights reserved.
Licensed under the Apache License, Version 2.0 (the "License");
You may obtain a copy of the License at <http://www.apache.org/licenses/LICENSE-2.0>

Copyright © 2018 STMicroelectronics. All rights reserved.
This software component is licensed by ST under BSD 3-Clause license, the "License";
You may obtain a copy of the License at <https://opensource.org/licenses/BSD-3-Clause>

- Roland, SuperNATURAL は、日本国およびその他の国におけるローランド株式会社の登録商標または商標です。
- 文中記載の会社名および製品名などは、各社の登録商標または商標です。
- Apple Logic Pro X, Garage Band, Mainstage は、米国 Apple Inc. の登録商標または商標です。

English

日本語

Deutsch

Français

Italiano

Español

Português

Nederlands

PDF マニュアルのダウンロード

本製品は、取扱説明書（本書）のほかに、PDF マニュアルを提供しています。

リファレンス・マニュアル

本機のすべての機能とパラメーターについて解説しています。

パラメーター・ガイド

本機のすべてのパラメーターについて解説しています。

サウンド・リスト

内蔵音色一覧です。

DAW コントロール・ガイド

FANTOM から DAW をコントロールする操作方法について解説しています。

MIDI インプリメンテーション

MIDI メッセージの詳細資料です。

取扱説明書（最新版）

取扱説明書（本書）の PDF 版です。

ダウンロードはこちらから

1. パソコンなどで下記の URL を入力します。

<https://www.roland.com/jp/manuals/>



2. 製品名「FANTOM-06 / FANTOM-07 / FANTOM-08」を選んでください。

スタンドへの設置のしかた

スタンドを設置するときは、指などを挟まないよう、十分にご注意ください。ご使用になるときは以下のように設置します。

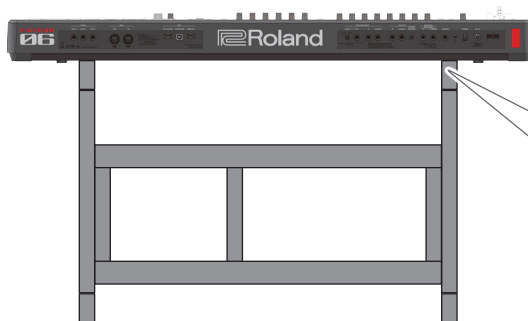
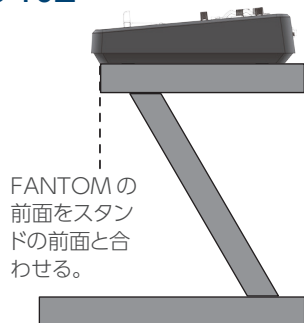
※KS-10Z をお使いになるときは、設置の高さが 1m 以下になるようにしてください。

FANTOM-06 / FANTOM-07 をお使いの場合

FANTOM-06 / FANTOM-07 をスタンドに設置するときは、当社製のスタンド KS-12、KS-10Z または KS-20X をご使用ください。

※図は FANTOM-06 です。

KS-10Z



FANTOMのゴム足でスタンドを
挟むように、スタンドの横幅を調
節する。



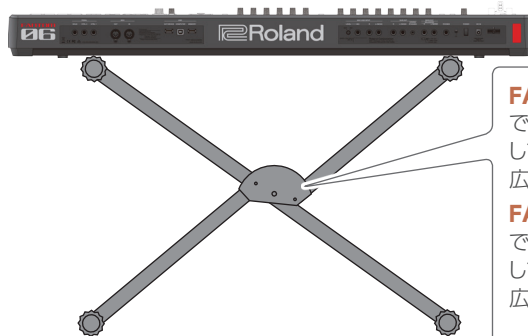
KS-12



FANTOMの鍵盤側のゴム足
がゴム足受けに入るように、
スタンドの横幅を調節する。



KS-20X



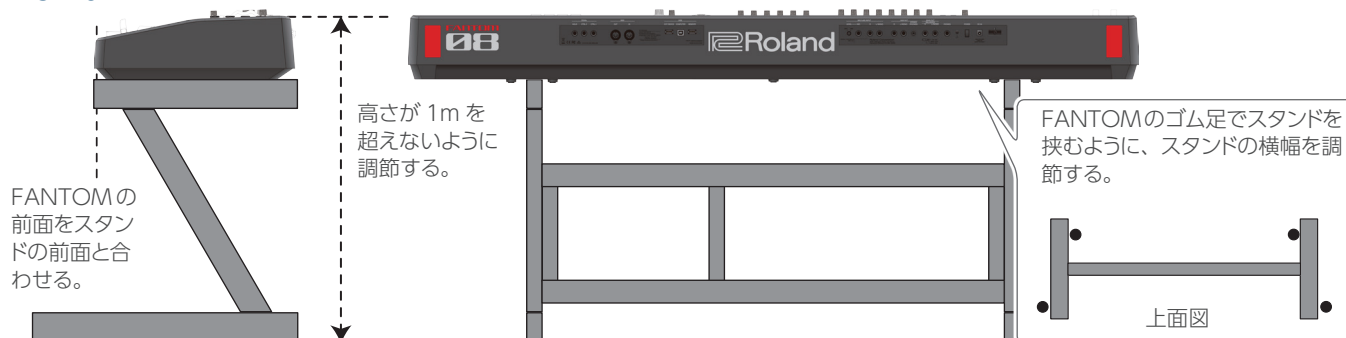
FANTOM-06 : 閉じた状態から 4 つま
で広げた位置 (閉じた状態を 1 番目と
して、5 番目まで広げた位置) よりも
広げる。

FANTOM-07 : 閉じた状態から 5 つま
で広げた位置 (閉じた状態を 1 番目と
して、6 番目まで広げた位置) よりも
広げる。

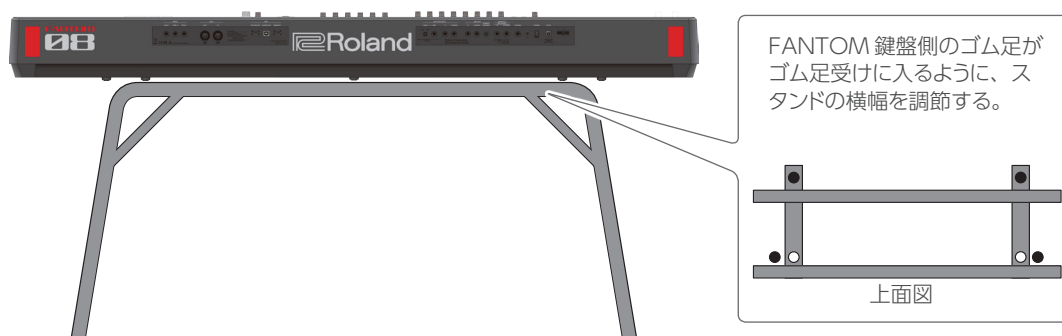
FANTOM-08 をお使いの場合

FANTOM-08 をスタンドに設置するときは、当社製のスタンド KS-12、KS-10Z、KS-G8B または KS-20X をご使用ください。

KS-10Z



KS-12



KS-G8B



KS-20X



English

日本語

Deutsch

Français

Italiano

Español

Português

Nederlands

各部の名称とはたらき

トップ・パネル



1 コントローラー・セクション

操作子	説明
WHEEL1 WHEEL2	いろいろなパラメーターや機能を割り当てられます。演奏中にホイールを動かして、割り当てられた機能を使います。 [SHIFT] ボタンを押しながら操作すると、設定画面が表示されます。
[S1] [S2] ボタン	いろいろなパラメーターや機能を割り当てることができます。 [SHIFT] ボタンを押しながらこのボタンを押すと、設定画面が表示されます。
ピッチ・バンド/モジュレーション・レバー	ピッチ（音の高さ）を変化させたり、ビブラレーションをかけたりします。

2 ゾーン・セクション

操作子	説明
[MASTER VOLUME] つまみ	MAIN OUT 端子、PHONES 端子から出力する音量を調節します。
[PAN/LEVEL] ボタン	ボタンを押して点灯させると、コントロールつまみ [1] ~ [8] で各 ZONE のパンを、スライダー [1] ~ [8] で各 ZONE の音量を調節できます。 [SHIFT] ボタンを押しながらこのボタンを押すと、MIXER 画面が表示されます。
[CTRL] ボタン	ボタンを押して点灯させると、コントロールつまみ [1] ~ [8] でカレント・ゾーンのパラメーターをリアルタイムにコントロールすることができます。
[ASSIGN] ボタン	スライダー [1] ~ [8]、コントロールつまみ [1] ~ [8] に別の機能を割り当てます。 ASSIGN1 は SCENE で設定するパラメーター、ASSIGN2 はシステムで設定するパラメーターです。 [SHIFT] ボタンを押しながらこのボタンを押すと、設定画面が表示されます。
	ASSIGN1 と ASSIGN2 の切り替えかた
	ASSIGN1 (SCENE) [ASSIGN] ボタン
	ASSIGN2 (SYSTEM) [ASSIGN] ボタン + [PAN/LEVEL] ボタン

操作子	説明
[ZONE 9-16] ボタン	操作の対象となるゾーンを切り替えます。 消灯 : 1 ~ 8 点灯 : 9 ~ 16
[ZONE SELECT] ボタン	操作の対象となるゾーン（カレント・ゾーン）を選びます。選んだゾーンがカレント・ゾーンになります。 ZONE SELECT がオンのときは、ZONE INT/EXT [1] ~ [8] ボタンで、カレント・ゾーンを選ぶことができます。
コントロールつまみ [1] ~ [8]	いろいろなパラメーターを割り当てることができます。左側の機能選択ボタンにより、操作できるパラメーターが変わります。
ZONE INT/EXT ボタン [1] ~ [8]	鍵盤を弾いたときに対象となるゾーンを鳴らすか、鳴らさないかを選びます。カレント・ゾーンとの組み合わせで、内蔵音源（外部音源）の鳴りかたが決まります。 ZONE SELECT がオンのときは、ZONE SELECT [1] ~ [8] ボタンとして動作します。
スライダー [1] ~ [8]	いろいろなパラメーターを割り当てることができます。左側の機能選択ボタンにより、操作できるパラメーターが変わります。
[SPLIT] ボタン	スプリットをオン/オフします。
[CHORD MEMORY] ボタン	コード・メモリー機能をオン/オフします。
[ARPEGGIO] ボタン	アルペジオ機能をオン/オフします。
[TRANPOSE] ボタン	このボタンを押しながら OCTAVE [DOWN] [UP] ボタンを押すと、鍵域を半音単位で上げ下げできます。
OCTAVE [DOWN] [UP] ボタン	鍵域をオクターブ単位で上げ下げできます。

3 共通セクション

操作子	説明
[WRITE] ボタン	WRITE 画面が表示されます。 シーンやトーンを保存します。
[MASTER FX] ボタン	MASTER FX 画面が表示されます。 [SHIFT] ボタンを押しながらこのボタンを押すと、MASTER EQ 設定画面が表示されます。
[MOTIONAL PAD] ボタン	MOTIONAL PAD 画面が表示されます。

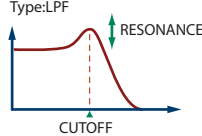
操作子	説明
[DAW CTRL] ボタン	DAW のコントローラーとして使うことができます。
[MENU] ボタン	MENU 画面が表示されます。
ディスプレイ	操作に応じて、いろいろな情報を表示します。
FUNCTION つまみ [E1] ~ [E6]	つまみを回すと、画面の下に表示された機能やパラメーターの値を変更します。 また、押し込むことで操作を実行したり、値を確定したりします。
[TEMPO] ボタン	TEMPO 画面が表示されます。 また、ボタンを繰り返し押した間隔で、テンポを設定します。
[VALUE] ダイアル	値を変更します。 [SHIFT] ボタンを押しながら [VALUE] ダイアルを回すと、値が大きく変わります。
[DEC] [INC] ボタン	値を変更します。 片方のボタンを押しながら、もう一方のボタンを押すと値が速く変わります。 また、[SHIFT] ボタンを押しながらこのボタンを押すと、値が大きく変わります。
カーソル [▲] [▼] [◀] [▶] ボタン	カーソル位置を上下左右に移動します。 または、画面を切り替えます。
[SHIFT] ボタン	他のボタンと組み合わせて押すと、関連する設定画面が表示されます。
[EXIT] ボタン	元の画面に戻ったり、開いているウィンドウを閉じたりします。 また、[SHIFT] ボタンを押しながらこのボタンを押すと、音源と MIDI に対してオール・ノート・オフ・メッセージを出力します。外部機器を含め、音が鳴り続けてしまうときなどにミュートすることができます。
[ENTER] ボタン	値の確定、操作の実行、またはリストなどを表示するときに使います。

4 シーン・セクション

操作子	説明
[SCENE SELECT] ボタン	SCENE SELECT 画面が表示されます。 シーンを選びます。
[SCENE CHAIN] ボタン	SCENE CHAIN 画面が表示されます。 シーンを順番に呼び出します。
[ZONE VIEW] ボタン	ZONE VIEW 画面が表示されます。 各ゾーンの状態を確認できます。
[SINGLE TONE] ボタン	ZONE1 にピアノ音色を呼び出します。 ZONE1 以外はオフになります。 注意 このボタンを押すと、保存していないシーンの設定は失われますのでご注意ください。

5 SYNTH コントロール・セクション

操作子	説明
[OSC] ボタン	TONE EDIT ZOOM 画面の OSC 設定画面が表示されます。
[CUTOFF] つまみ	フィルターのカットオフ周波数を設定します。

操作子	説明
[RESONANCE] つまみ	フィルターのレゾナンスを設定します。 
[FILTER TYPE] ボタン	フィルターのタイプを選びます。
[PARAM] ボタン	TONE EDIT ZOOM 画面の FILTER 設定画面画面を表示します。
[AMP] ボタン	AMP ENV 画面を表示します。
[FX] ボタン	MFx EDIT 画面を表示します。
[LFO] ボタン	LFO1 画面を表示します。

6 シーケンサー・セクション

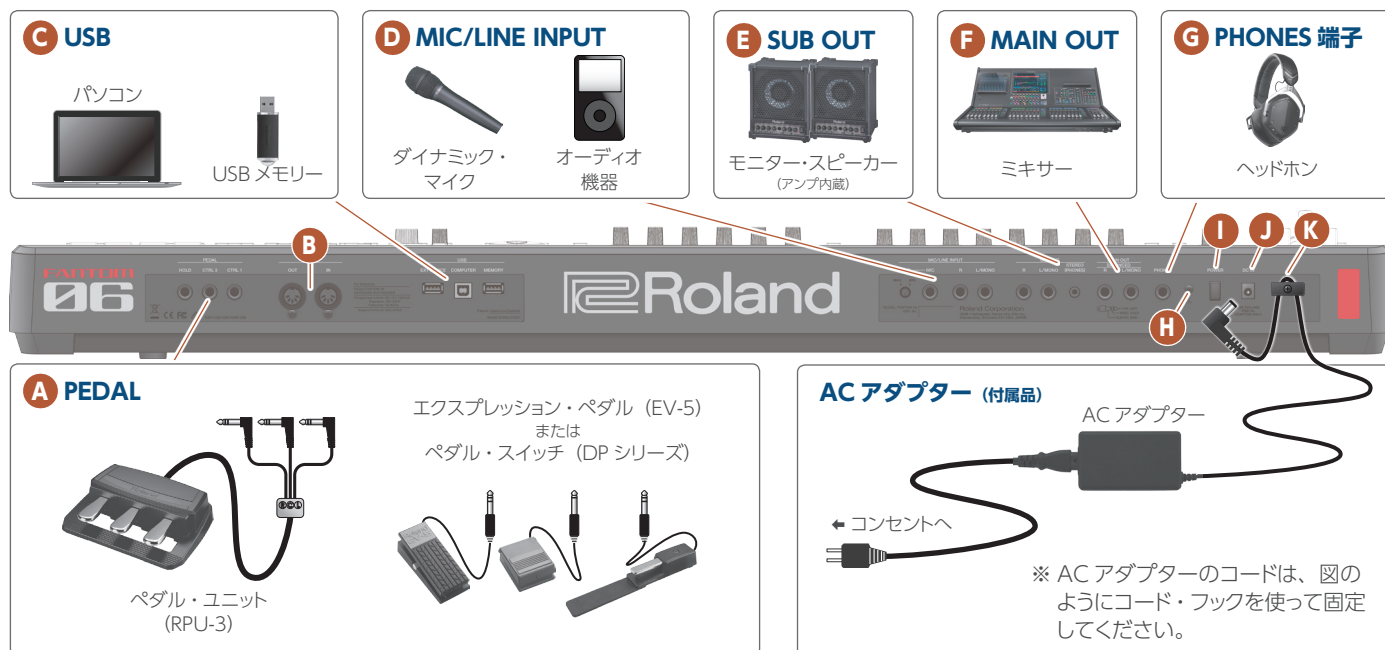
操作子	説明
[PATTERN] ボタン	PATTERN 画面が表示されます。
[GROUP] ボタン	GROUP 画面が表示されます。
[SONG] ボタン	SONG 画面が表示されます。
[TR-REC] ボタン	TR-REC を有効にします。(P.29)
[RHYTHM PTN] ボタン	RHYTHM PATTERN 画面が表示されます。
[■STOP] ボタン	パターンの再生や録音を停止したり、グループ、ソングの再生を停止したりします。
[▶PLAY] ボタン	パターンや、グループ、ソングを再生します。
[●REC] ボタン	録音待機状態になります。
トーン・カテゴリー・ボタン [1] ~ [16]	各カテゴリーのトーンを選びます。 その他にも、TR-REC の入力用に使用したり、SCENE CHAIN 機能のセレクターとして使用したりと、場面によって機能が変わります。

7 パッド・セクション

操作子	説明
[SAMPLING] ボタン	サンプリングします。
[PAD MODE] ボタン	パッドに割り当てる機能を設定します。 [SHIFT] ボタンを押しながらこのボタンを押すと、現在選ばれているパッド・モードの設定画面や関連画面が表示されます。
[CLIP BOARD] ボタン	サンプルをパッドからパッドへ移動したり、コピーしたりできます。
[BANK] ボタン	パッドのバンクを切り替えます。
[HOLD] ボタン	ホールド (パッドを離しても音を鳴らし続ける) をオン/オフします。
パッド [1] ~ [16]	パッドに割り当てられているサンプルを再生します。 パッド・モードの設定で、いろいろな機能を割り当てることができます。

リア・パネル (機器の接続)

※他の機器と接続するときは、誤動作や故障を防ぐため、必ずすべての機器の音量を絞り、すべての機器の電源を切ってください。



A PEDAL 端子

操作子	説明
HOLD 端子	ペダル・スイッチ (別売: DP シリーズ) を接続すると、ダンパー・ペダルとして使用することができます。
CTRL2 端子	CTRL 1、CTRL 2 端子に接続したペダルにいろいろな機能を割り当てることができます。
CTRL1 端子	

※エクスプレッション・ペダルは、必ず指定のものをお使いください。他社製品を接続すると、本体の故障の原因になる場合があります。

B MIDI 端子

操作子	説明
MIDI OUT 端子	外部 MIDI 機器と接続して、MIDI メッセージを送受信します。
MIDI IN 端子	

C USB 端子

操作子	説明
USB EXT DEVICE 端子	外部 USB 機器と接続します。
USB COMPUTER 端子	パソコンと接続して、演奏情報やオーディオ信号をやりとりします。
USB MEMORY 端子	市販の USB メモリーをお使いください。ただし、市販されている USB メモリーすべての動作を保証するものではありません。

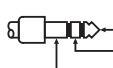
D MIC/LINE INPUT 端子

操作子	説明
LEVEL つまみ	MIC 端子の入力レベルを MAX  MIN 調節します。
MIC 端子	マイクを接続します。
R、L/MONO 端子	オーディオ機器、外部シンセサイザーなどを接続します。

E SUB OUT 端子

操作子	説明
R、L/MONO 端子	サブ・アウトのオーディオ信号の出力端子です。
STEREO (PHONES) 端子	サブ・アウトのオーディオ信号をステレオで出力します。 また、ステレオ・ミニ・プラグのヘッドホンを接続することができます。その際は MIXER 画面で音量や OUTPUT 画面で聞きたいソースの設定をしてください。

F MAIN OUT 端子

操作子	説明
R、L/MONO 端子 (バランス)	オーディオ信号のバランス出力端子です。ミキサーなどと接続します。 ※ MAIN OUT 端子のピン配置  TIP: HOT RING: COLD SLEEVE: GND

G PHONES 端子

ヘッドホンを接続します。

ヘッドホンを接続しても、OUTPUT 端子や BALANCED OUT 端子からはオーディオ信号が出力されます。

H 機能接地端子

外部アースまたは大地に接地します。必要に応じて接続してください。

I [POWER] スイッチ

電源をオン／オフします。

J DC IN 端子

付属の AC アダプターを接続します。

K コード・フック

付属の AC アダプターを DC IN 端子に接続しているときは、コードが誤ってはずれてしまわないよう、このフックにコードを固定してください。

電源を入れる／切る**電源を入れる**

1. 本機の音量を最小にします。
接続している外部機器の音量も最小にしてください。
2. [ON] スイッチを押します。
電源が入り、ディスプレイが点灯します。
3. 接続している外部機器の電源を入れます。
4. 接続している外部機器の音量を調節します。
5. 本機の音量を調節します。

電源を切る

1. 本機の音量を最小にします。
接続している外部機器の音量も最小にしてください。
2. 接続している外部機器の電源を切ります。
3. [ON] スイッチを押します。
電源が切れます。
※電源を入れる／切るときは、音量を絞ってください。音量を絞っても電源を入れる／切るときに音がすることがありますが、故障ではありません。

一定時間がたつと自動で電源が切れるようにする (Auto Off)

本機は、演奏や操作をやめてから一定時間経過すると自動的に電源が切れます (Auto Off 機能)。

自動的に電源が切れないようにするには、Auto Off 機能を解除してください。

**注意**

- 電源が切れると保存していないデータは失われます。残しておきたいデータはあらかじめ保存しておいてください。
- 電源を再びオンにするときは、電源を入れ直してください。

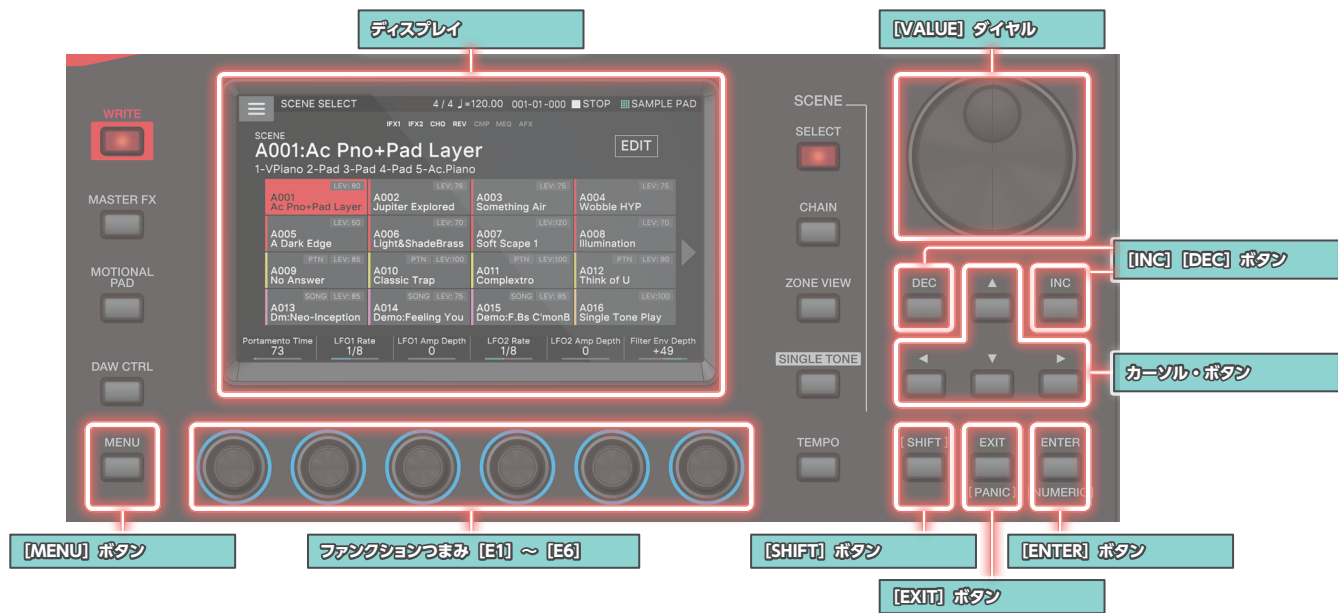
オート・オフの設定を変える

1. [MENU] ボタンを押します。
MENU 画面が表示されます。
2. <SYSTEM> にタッチします。
SYSTEM 画面が表示されます。
3. <GENERAL> にタッチします。
4. [Auto Off] を選んで設定を変更します。

パラメーター	設定値	説明
Auto Off	Off	自動で電源を切らない設定にします。
	30min	30 分間操作をしないと、自動で電源が切れます。
	240min	240 分間 (4 時間) 操作をしないと、(工場出荷時) 自動で電源が切れます。

5. オート・オフの設定を記憶する場合は、SYSTEM 画面で [WRITE] ボタンを押します。

基本操作



値の変更

設定値を変更するときは、以下のようになります。

[INC] [DEC] ボタン

値を大きくするときは [INC] ボタンを押し、小さくするときは [DEC] ボタンを押します。

目的	操作
連続して値を変える	[DEC] ボタンまたは [INC] ボタンを押し続けます。
値を速く変える	[INC] ボタンを押しながら [DEC] ボタンを押すと値が速く大きくなります。 [DEC] ボタンを押しながら [INC] ボタンを押すと値が速く小さくなります。
値の変化量を大きくする	[SHIFT] ボタンを押しながら [DEC] ボタンを押します。 [SHIFT] ボタンを押しながら [INC] ボタンを押します。

[VALUE] ダイアル

値を大きくするときは時計回りに回し、小さくするときは反時計回りに回します。

目的	操作
値の変化量を大きくする	[SHIFT] ボタンを押しながら [VALUE] ダイアルを回します。

ディスプレイ (タッチ・パネル)

画面内のオン/オフ・アイコンや、つまみアイコン、スライダー・アイコンなどを直接タッチ、またはドラッグすることでオン/オフを切り替えたり、値を変更したりすることができます。

NUMERIC ウィンドウ

[SHIFT] ボタンを押しながら [ENTER] ボタンを押すと、NUMERIC ウィンドウが表示されます。パラメーターの数値をタッチ・パネルから直接入力するときに便利です。

注意

パラメーターによっては NUMERIC 入力に対応していない場合があります。

カーソルの移動

1 つの画面やウィンドウには複数の設定項目 (パラメーター) や選択項目が表示されています。これらを [INC] / [DEC] ボタン、[VALUE] ダイアルで変更する場合は、その対象となる箇所カーソルを移動します。

カーソルを移動させるには、以下のようになります。

カーソル [▲] [▼] [◀] [▶] ボタン

カーソル・ボタンを押すと、押した方向にカーソルが移動します。

目的	操作
連続してカーソルを移動する	カーソル・ボタンを押し続けます。
カーソルを速く移動する	連続してカーソルを移動している間に、逆方向のカーソル・ボタンを押します。

ディスプレイ (タッチ・パネル)

画面内のパラメーター値、つまみ・アイコン、スライダー・アイコンなどを直接タッチすることで、その場所へカーソルを移動することができます。

注意

アイコンによってはカーソルを移動できない場合があります。

値の確定／キャンセル

〔ENTER〕 ボタン

値の確定や操作の実行をします。

トーンやパラメーターにカーソルを合わせて〔ENTER〕ボタンを押すと、リストを表示して設定を変更できます。

〔EXIT〕 ボタン

元の画面に戻ったり、開いているウィンドウを閉じたりします。

ディスプレイ（タッチ・パネル）

確認画面などで表示される< OK >< SELECT >などは〔ENTER〕ボタンと同じ動きを、< CANCEL >< EXIT >などは〔EXIT〕ボタンと同じ動きをします。



〔SHIFT〕 ボタン

他のボタンと組み合わせで使います。

〔SHIFT〕ボタンを押しながら他のボタンを押すと、押したボタンに関する設定画面に移動することができます（ショート・カット）。

ファンクションつまみ〔E1〕～〔E6〕

画面ごとに、パラメーターの変更、リストやタブのスクロールなどの機能が割り振られたファンクションつまみとしてはたります。

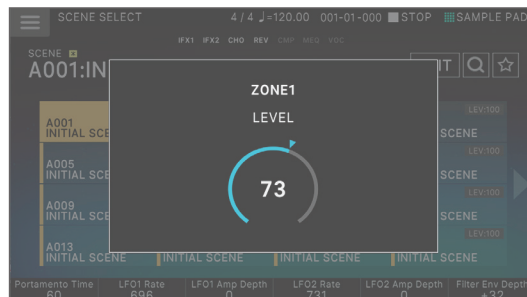
また、つまみを押し込むことで、ボタンのような動きで値を変えることができます。

つまみやスライダーの操作

つまみやスライダーなどで設定を変更すると、変更したパラメーターとその値が、ポップアップ画面に表示されます。

ポップアップ画面は、しばらく表示すると自動的に閉じます。

パラメーターによってはポップアップ画面が表示されません。



〔MENU〕 ボタン

各機能の詳細設定やシステム設定をします。SCENE SELECT 画面の左上の< ≡ >アイコンをタッチしてもメニュー画面を表示できます。

本書内での操作手順について

本機で「値の変更」、「カーソルの移動」、「値の確定／キャンセル」、「画面の移動」をする操作については、すでに説明されているように、そのほとんどの場合、複数の方法が用意されています。（「ボタン操作」、「タッチ・パネル操作」、「〔VALUE〕ダイヤル操作」など。）

本書では、案内が煩雑になるのを防ぐ目的で、以降の操作説明において、すべての方法を記述するのではなく、「～にカーソルを合わせて値を変更します。」といった簡素な説明で記述してあります。実際の操作方法については、上記にある複数の操作方法の中からをお好みの方法を選んで操作してください。

ディスプレイの操作

本機のディスプレイはタッチ・パネルになっており、ディスプレイに直接タッチすることで、さまざまな操作ができます。たくさんの画面がありますが、ここでは基本的な画面操作の例を紹介します。

[] で囲まれた文字はパネル上のボタンを表します。< > で囲まれた文字は画面上のボタンやつまみを表します。

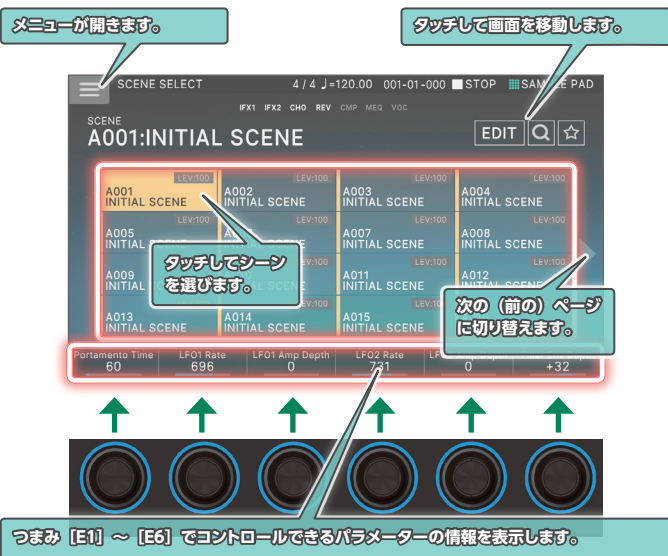
注意

タッチ・パネルは指で軽く触れるだけで動作します。強く押したり、固いもので押ししたりすると、タッチ・パネルを破損することがあります。力の入れすぎには十分注意して、必ず指で操作してください。

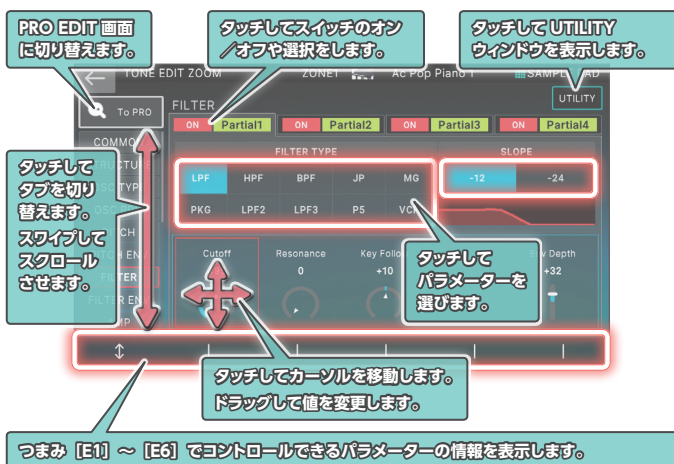
メモ

どの画面にいるのか分からなくなった場合、[EXIT] ボタンを数回押すか、[SCENE SELECT] ボタンを押せば、SCENE SELECT 画面に戻ることができます。

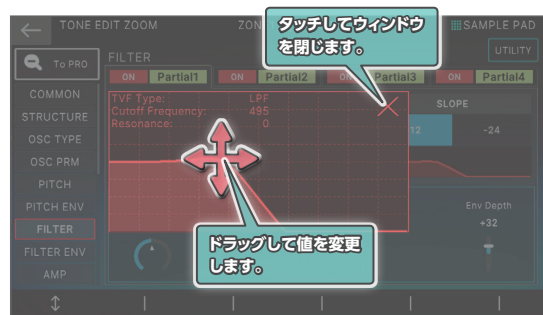
SCENE SELECT 画面



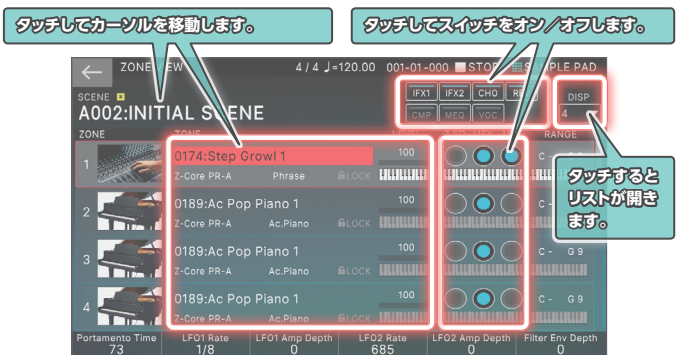
TONE EDIT 画面



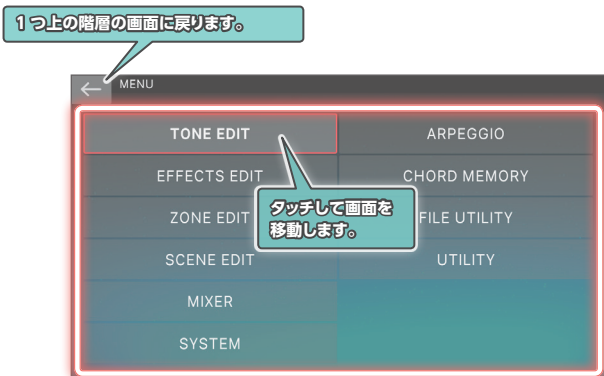
TONE EDIT 画面



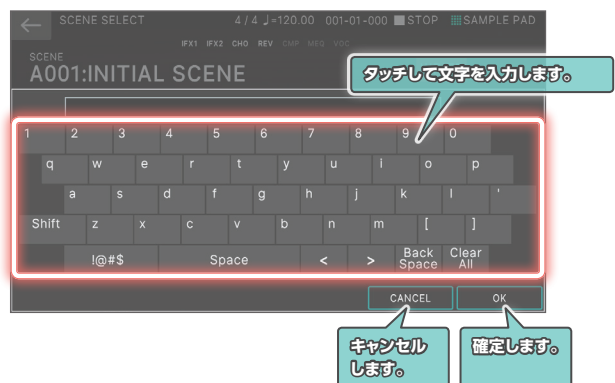
ZONE VIEW 画面



MENU 画面

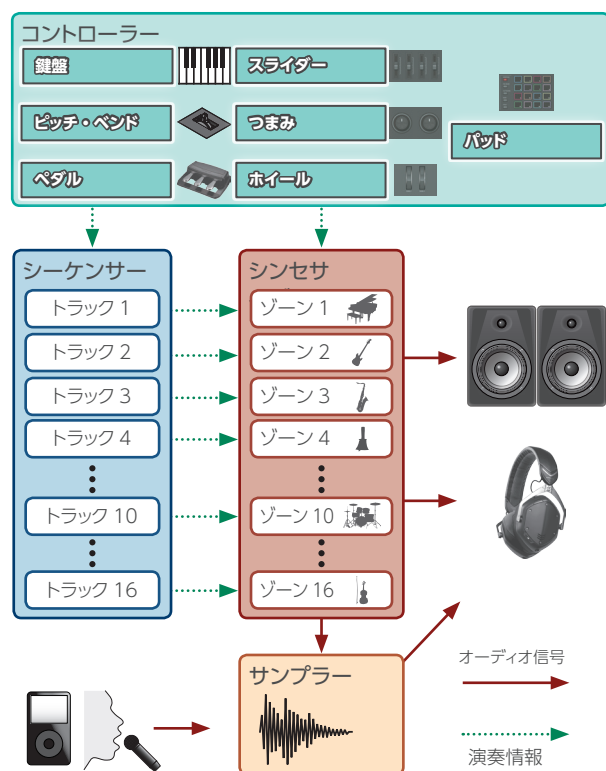


RENAME 画面



本機の概要

本機は大きく分けて、「コントローラー」「シンセサイザー」「シーケンサー」「サンプラー」の4つで構成されています。



コントローラー

鍵盤、パッド、ピッチ・ベンド／モジュレーション・レバー、ホイール、パネル上のつまみ、スライダー、リア・パネルに接続したペダルなどが含まれます。キーを押す／離す、ダンパー・ペダルを踏むなどの演奏情報をMIDIメッセージに変換して、音源部や外部MIDI機器に送信します。

シンセサイザー

音を発生させたり、変化させたりする部分です。コントローラーからの演奏情報をオーディオ信号に変換して、OUTPUT端子やPHONES端子から出力します。

ピアノ、オルガン、ストリングス、リード・シンセ、ドラムまでこの部分で音になります。

シーケンサー

16トラックのMIDIシーケンサーを使って、パターンを作ることができます。

シーン上の16ゾーンのトーンを使って、そのまま16トラックで録音できます。リアルタイム録音、ステップ録音、TR-RECに対応しています。

パターンの組み合わせでグループを作り、グループを並べてソングを作ることができます。

パターン

音色ごとに演奏情報を記録したシーケンス・データの単位です。1トラックに最大8個持つことができます。1つのパターンは最大32小節まで記録できます。

グループ

各トラックのパターンの組み合わせを記録したものです。1シーンに最大16個のグループを作ることができます。

ソング

グループを順に並べていくことで、曲を作ることができます。グループの並び順を記録したものをソングといいます。1シーンに1個のソングを作ることができます。

サンプラー

サンプラー部は、鍵盤の演奏や、オーディオ機器やマイクなどの入力音を、本機にオーディオ録音（サンプリング）します。サンプリングされたサンプルは、パッドを押して再生します。

本機には音源で鳴らすことができるマルチサンプル対応サンプラーも搭載されています。

➡ 詳しくは、「リファレンス・マニュアル」(PDF)をご覧ください。本書ではパッドサンプラーについてご説明します(P.23)。

サンプル

サンプリングした、音の素材のことです。サンプルごとにループなどの設定を加え、パッドに割り当てます。

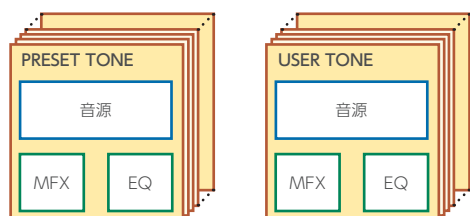
音の単位

トーン (TONE)

音色の最小単位をトーンと呼びます。

トーンは音源とエフェクト (MFX+EQ) の組み合わせで構成されます。

トーンはトーン・カテゴリ・ボタン [1] ~ [16] でカテゴリごとに選ぶことができます。



エディットしたトーンは、ユーザー・トーンとして保存できます。

また、トーンの中には、複数の打楽器音を集めた「ドラム・キット」も含まれます。

ドラム・キットでは、押さえる鍵盤（ノート・ナンバー）によって異なる打楽器音が鳴るようになっています。

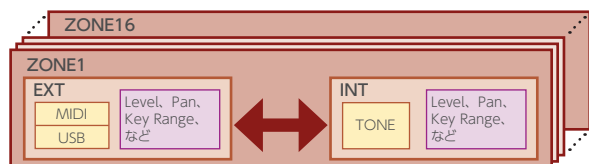
ゾーン (ZONE)

トーンを演奏するための入れ物です。

1 つのトーンを 1 つのゾーンに割り当てて鳴らします。ゾーンごとに、鍵盤との接続、鍵域の指定、音量、パン、コントローラーの受信などの演奏に必要な設定をします。

ゾーンは 16 個あり、ゾーンを組み合わせ、複数のトーンで構成された音色を作ったり、曲ごとの演奏（音色）設定の土台を作ったりするのに適しています。

また、任意のゾーンを内蔵音源用ではなく、外部音源のコントロールに使うこともできます (EXT ZONE)。



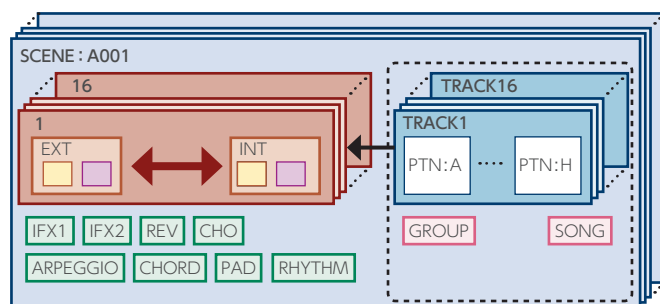
シーン (SCENE)

シーンは、ゾーンごとの設定（トーン、MFX、音量など）、ゾーン共通の設定（リバーブ、コーラス、IFX など）、ゾーンごとのシーケンス・データなどの、お気に入りの演奏状態をそのまままとめて記憶したものです。

思いついた曲やフレーズのアイデアをそのままシーンに記憶でき、曲ごとにシーンを切り替えて管理することができます。

保存したシーンは、起動時後に表示される SCENE SELECT 画面で自由に呼び出すことができます。

SCENE CHAIN 機能を使えば、ライブの曲順でシーンを並べて順番に呼び出したり、よく使うシーンをまとめて簡単に呼び出したりすることができます。(P.17)



メモ

シーンはリメインすることができます (Scene Remain)。

画面上部のアイコンでオン/オフを確認することができます。

16: OFF, **16**: ON

シーン・リメインの設定について詳しくは、『リファレンス・マニュアル』(PDF) をご覧ください。

エフェクト

本機には、さまざまなエフェクトが搭載されています。

トーン・エフェクト (MFX、COMP)

各トーンに設定するエフェクトです。ドラム・キットが設定されているトーンには COMP が使えます。

ゾーン・エフェクト (EQ)

各ゾーンに設定するエフェクトです。

シーン・エフェクト (IFX 1、IFX 2、Chorus、Reverb)

各シーンに設定するエフェクトです。

マスター FX (M. COMP、M. EQ、TFX)

システムで設定する全体にかかるエフェクトです。最終的な音の仕上げに使用します。

TFX は、リアルタイムでコントロールすることができます。

音色を選ぶ (SCENE / TONE)

シーンを選ぶ

1. [SCENE SELECT] ボタンを押します。

SCENE SELECT 画面が表示されます。



2. 画面内のシーン・アイコンをタッチして目的のシーンを選びます。

選ばれたシーンのアイコンには色が付きます。



画面内は 4 × 4 の 16 個のシーン・アイコンが並び、その中からシーンを選ぶことができます。画面内の左右端にある「◀」「▶」アイコンをタッチすると、「前の」「次の」16 個のシーンを選ぶようになります。

トーンを選ぶ

1. [ZONE VIEW] ボタンを押します。

ZONE VIEW 画面が表示されます。

[ZONE VIEW] ボタンを押すたびに、VIEW 数（一度に表示するゾーンの数）が切り替わります。



2. [ZONE SELECT] をオンにしたあとに、ZONE INT/EXT [1] ~ [8] ボタンを押して、カレント・ゾーン (操作するゾーン) を選びます。

3. ZONE INT/EXT [1] ~ [8] ボタンを押して、操作するゾーンを選びます。

ゾーン 9 ~ 16 を選ぶときは、[ZONE 9-16] ボタンでグループを切り替えてから、ZONE INT/EXT [1] ~ [8] ボタンを押します。

4. トーン・カテゴリー・ボタン [1] ~ [16] のいずれかを押して、トーンの種類 (カテゴリー) を選びます。

5. カーソルをトーン名 (番号) に合わせて、[VALUE] ダイアルや [INC] [DEC] ボタンでトーンを選びます。



- カーソルをトーン名 (番号) に合わせた状態で [ENTER] ボタンを押すと、「TONE LIST」が表示されます。

ゾーンを重ねる (レイヤー)

1. 重ねて鳴らしたいゾーンの ZONE INT/EXT ボタンを押して、赤点灯させます。

2. 点灯させたゾーンのうち、いずれかのゾーンをカレント・ゾーンに指定します。

鍵盤を弾くと、赤点灯させたゾーンを重ねて演奏できます。

注意

ZONE INT/EXT ボタンが緑点灯しているゾーンは、外部 MIDI 音源をコントロールしています。

内部音源に切り替える場合は、もう一度 [SHIFT] ボタンを押しながら該当する ZONE INT/EXT ボタンを押して、ボタンを赤点灯 (INT 設定) させてください。

鍵盤を 2 つの鍵域に分ける (スプリット)

1. [SPLIT] ボタンを押して、点灯させます。

高音域でゾーン 1 のトーン、低音域でゾーン 4 のトーンが鳴ります。

2. スプリットを解除するときは、[SPLIT] ボタンを押して消灯させます。

解除すると、高域と低域の鍵域 (KEY RANGE) がリセットされ、レイヤー状態に戻ります。

音域の分かれる位置を変える (スプリット・ポイント)

1. [SPLIT] ボタンを押しながら、スプリット・ポイントにしたい鍵を押します。

スプリット・ポイントが表示されます。

[SPLIT] ボタンから指を離すと画面が元に戻ります。

スプリット・ポイントの鍵は、ゾーン 1 に含まれます。

メモ

- 高音域の音色を変更したい場合は、ZONE SELECT [1] を、低音域の音色を変更したい場合は、ZONE SELECT [4] を、押してから、音色を選んでください。
- KEY RANGE 機能を使うと、ゾーンごとに鍵域を自由に設定することができます。
- [SHIFT] ボタンを押しながら [SPLIT] ボタンを押すと、KEY RANGE の設定画面に移動します。

音域を半音単位で高く／低くする (トランスポーズ)

1. [TRANSPPOSE] ボタンを押しながら、OCTAVE [DOWN] ボタンまたは [UP] ボタンを押します。
 - -5 ～ +6 半音まで設定できます。
 - 元に戻すときは、[TRANSPPOSE] ボタンを押しながら、OCTAVE [DOWN] ボタンと [UP] ボタンを同時に押します。

音域をオクターブ高く／低くする (オクターブ)

1. OCTAVE [DOWN] ボタンまたは [UP] ボタンを押します。
 - 最大±3 オクターブまで設定できます。
 - 元に戻すときは、OCTAVE [DOWN] ボタンと [UP] ボタンを同時に押します。

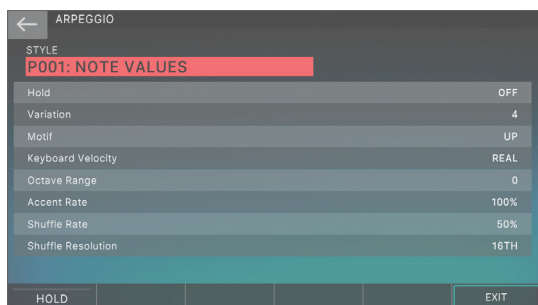
アルペジオ演奏をする

アルペジオは、押さえたキーに従って、自動的にアルペジオ演奏する機能です。

1. ZONE VIEW 画面で対象となるゾーンの ARP を「ON」にします。



2. [ARPEGGIO] ボタンを押して、点灯させます。



3. 鍵盤で和音を弾きます。
押さえた和音の構成音に従って、オンにしたゾーンのアルペジオ演奏が始まります。
4. カーソルを「STYLE」に合わせて、スタイルを変更します。
選んだスタイルによって、アルペジオ演奏が変化します。
5. オフにするときは、もう一度 [ARPEGGIO] ボタンを押して消灯させます。

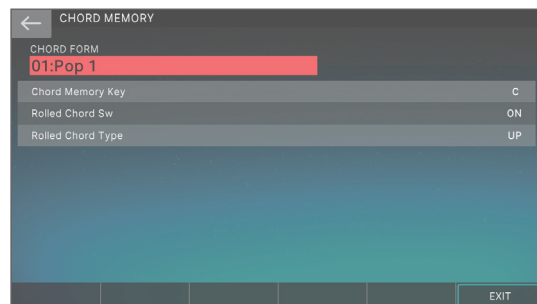
メモ

コード・メモリー機能と一緒に使うと、指一本で多彩なアルペジオ・サウンドを簡単に演奏できます。

コード演奏をする (コード・メモリー)

コード・メモリーは、鍵盤のキーを 1 つ弾くだけで、あらかじめ登録されているコード・フォームに従って和音を鳴らすことができる機能です。

1. [CHORD MEMORY] ボタンを押して、点灯させます。

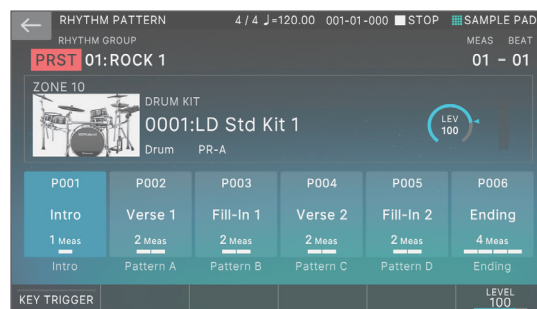


2. 鍵盤を弾きます。
選ばれているコード・フォームに従って、和音が鳴ります。
3. カーソルを「CHORD FORM」に合わせて、コード・フォームを変更します。
和音の鳴りかたが変化します。
4. オフにするときは、もう一度 [CHORD MEMORY] ボタンを押して消灯させます。

リズム・パターンを選ぶ／鳴らす

本機では、リズム・パターンを鳴らしながら演奏することができます。

1. [RHYTHM PATTERN] ボタンを押します。
RHYTHM PATTERN 画面が表示されます。



2. カーソルを「RHYTHM GROUP」に合わせてみます。
3. [VALUE] ダイアルで、リズム・グループを選びます。
4. <Intro>～<Ending>をタッチして、鳴らすリズム・パターンを選びます。
リズム・パターンが鳴ります。

メモ

停止するときは、鳴っているリズム・パターンのアイコンにタッチします。

テンポを変える

1. [TEMPO] ボタンを押して、TEMPO 画面を表示させます。
2. [VALUE] ダイアルで、テンポを変更します。

メモ

[TEMPO] ボタンを押すタイミングで、テンポを設定することができます（タップ・テンポ）。設定したいテンポの4分音符のタイミングで3回以上押してください。

スライダー／コントロールつまみを使う

1. 対象となるゾーン（ZONE1～ZONE16）を切り替えます。

メモ

[ZONE 9-16] ボタンで、ZONE1～8またはZONE9～16のどちらかを表示できます。

2. 機能選択ボタンを押して、操作するパラメーターを選びます。

ボタン	説明
[PAN/LEVEL] ボタン	コントロールつまみで各ゾーンのパンを、スライダーで各ゾーンの音量を調節できます。
[CTRL] ボタン	カレント・ゾーンのパラメーターをコントロールつまみ [1] ～ [8] でリアルタイムにコントロールすることができます。 ATTACK、RELEASE、REVERB、CHORUS、LOW GAIN、MID GAIN、HIGH GAIN、EQ ON
[ASSIGN] ボタン	コントロールつまみやスライダーで、あらかじめ設定されたパラメーターを調節できます。 SCENE の設定: [ASSIGN] SYSTEM の設定: [ASSIGN] + [PAN/LEVEL]
[ZONE SELECT] ボタン	操作の対象となるゾーン（カレント・ゾーン）を選びます。 選んだゾーンがカレント・ゾーンになります。 メモ 「[ZONE SELECT] がオンのときは、ZONE INT/EXT [1] ～ [8] ボタンの機能が、カレント・ゾーンを選択する動作に変わります。

3. コントロールつまみ／スライダーを動かします。

パンや音量など、割り当てられた機能に従って、音色が変化します。

メモ

[SHIFT] ボタンを押しながら、[ASSIGN] ボタンを押すと、パラメーターを割り当てるための設定画面が表示されます。

→ 詳しくは『リファレンス・マニュアル』（PDF）をご覧ください。

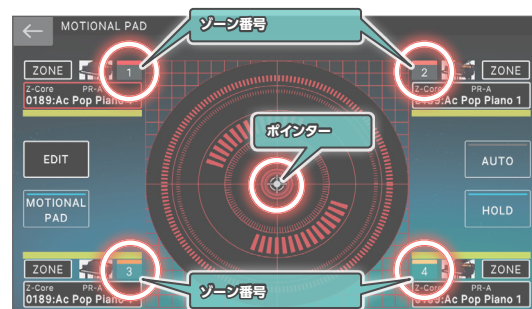
複数のゾーンの音量を同時に変更する （モーショナル・パッド）

モーショナル・パッド機能は、4つのゾーンの音量を、画面をドラッグすることで一度に変更できる機能です。モーショナル・パッド機能を使うと、指一本の操作で、バラエティーに富んだ音色の変化をリアルタイムに得ることができます。

1. [MOTIONAL PAD] ボタンを押します。

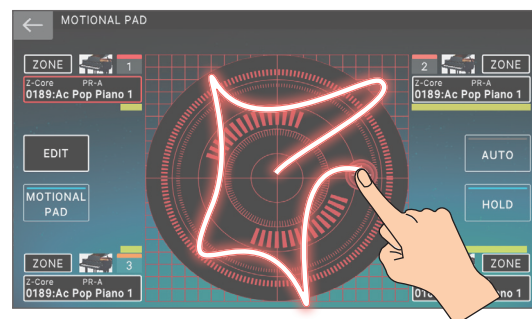
MOTIONAL PAD 画面が表示されます。

画面の4隅のゾーン番号欄に、モーショナル・パッド機能で使用するゾーンの番号が表示されます。該当するゾーンがオフになっている場合は、ZONE SELECT ボタン、ZONE INT/EXT [1] ～ [8] ボタンを押して、ゾーンをオンにします。



2. 画面中央の円（ポインター）をドラッグして位置を動かします。

ポインターの位置に応じて、4つのゾーンの音量バランスが変わり、リアルタイムに音が変わります。



エディット編

ゾーンをエディットする

ゾーンは 16 ゾーンあり、ゾーンごとに音量 (Level)、イコライザー (EQ)、キー・レンジ (Keyboard) などの設定ができます。

1. シーンを選びます。
2. [MENU] ボタンを押します。
MENU 画面が表示されます。
3. < ZONE EDIT >にタッチします。
ZONE EDIT 画面が表示されます。
4. カーソル [▲] [▼] ボタンを押して、操作するゾーンを選びます。
ゾーン 9 ~ 16 を選ぶときは、[ZONE 9-16] ボタンでグループを切り替えます。
5. カーソルを目的のパラメーターに合わせて、設定値を変更します。



つまみ [E1] ~ [E6] を使って、タブのスクロールやカーソルの移動、パラメーターを直接変更することができます。

注意

エディットしたゾーンの設定は一時的なものです。電源を切ったり、他のゾーンを選んだりすると消えてしまいます。

設定を残しておきたいときは、シーンを保存してください (P.22)。

メモ

ゾーン・パラメーターについて、詳しくは『パラメーター・ガイド』(PDF) をご覧ください。

トーンをエディットする

トーンをエディットします。

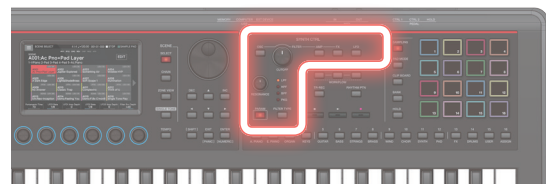
1. 「トーンを選ぶ」(P.17) の手順に従って、エディットしたいトーンを選びます。
2. [MENU] ボタンを押します。
MENU 画面が表示されます。
3. < TONE EDIT >にタッチします。
TONE EDIT ZOOM 画面が表示されます。



4. カーソルを目的のパラメーターに合わせて、設定値を変更します。
つまみ [E1] ~ [E6] を使って、タブのスクロールやパラメーターを直接変更することができます。

メモ

- TONE EDIT PRO 画面で、より詳しいエディットをすることができます。詳しくは『リファレンス・マニュアル』(PDF) をご覧ください。
- トーン・パラメーターについて、詳しくは『パラメーター・ガイド』(PDF) をご覧ください。
- TONE EDIT ZOOM 画面でエディットする以外にも、パネル右側の [CUTOFF] [RESONANCE] つまみでもトーンをエディットできます。
- [OSC] [AMP] [FX] [LFO] ボタンを押すと、TONE EDIT ZOOM 画面の各セクションへ移動することができます。

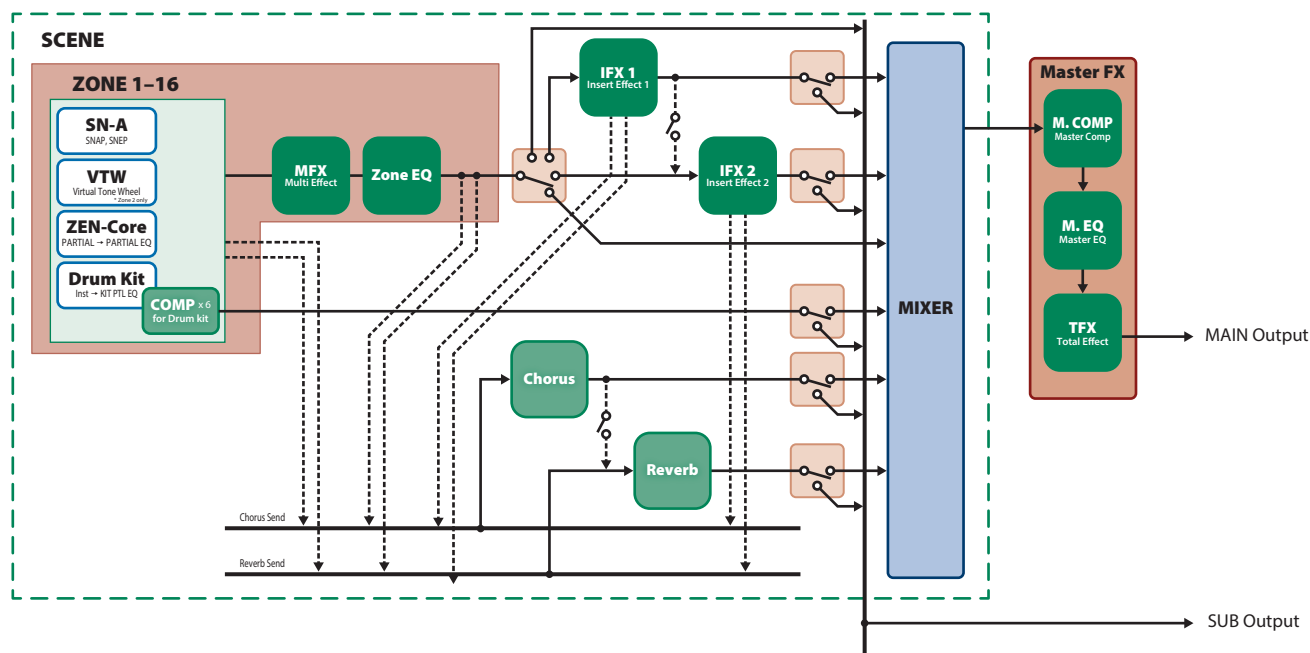


注意

エディットしたトーンは一時的なものです。電源を切ったり、他のトーンを選んだりすると消えてしまいます。設定を残しておきたいときは、トーンを保存してください (P.22)。

エフェクトをエディットする

各エフェクトの配置と信号の流れは以下のようになります。目的にあったエフェクトを選んで設定を変更します。
ここでは、トーンのエフェクト（MFX）をエディットする操作について説明します。

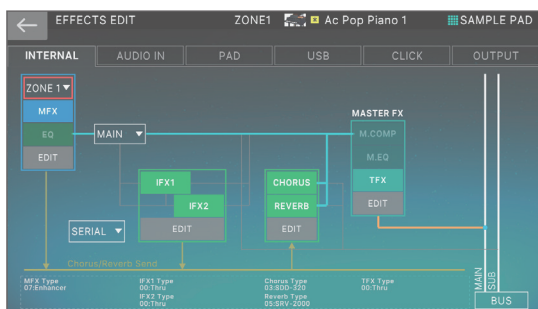


※ IFX1/2、Chorus、Reverb や Master FX について、詳しくは『パラメーター・ガイド』（PDF）をご覧ください。

トーンのエフェクトをエディットする（MFX）

トーンのエフェクト（MFX）をエディットします。

1. **[MENU]** ボタンを押します。
MENU 画面が表示されます。
2. **< EFFECTS EDIT >** にタッチします。
EFFECTS EDIT 画面が表示されます。

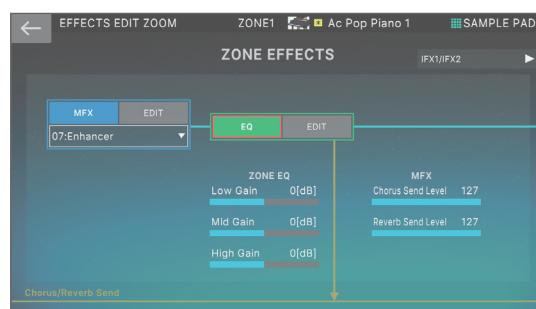


MFX をオン／オフする

1. 画面内の**< MFX >**をタッチしてオン／オフを切り替えます。

MFX のパラメーターを設定する

1. **MFX セクションの< EDIT >**にタッチします。
EFFECTS EDIT ZOOM 画面が表示されます。



2. **MFX セクションの< EDIT >**にタッチします。
MFX の MFX EDIT ZOOM 画面が表示されます。



3. カーソルを目的のパラメーターに合わせて、設定値を変更します。

つまみ [E1] ~ [E6] を使って、カーソルの移動や、パラメーターの直接変更ができます。

4. <To PRO> にタッチします。

MFx EDIT PRO 画面が表示されます。



注意

エディットした各種エフェクトは一時的なものです。電源を切ったり、他のシーン、トーンを選んだりすると消えてしまいます。設定を残しておきたいときは、シーン、トーン、またはシステム設定をそれぞれ保存してください。

メモ

- エフェクトは、画面でエディットする以外にも、パネル右側の EFFECTS セクションのつまみやボタンを操作してエディットができます (P.9)。
- パラメーターについて、詳しくは『パラメーター・ガイド』(PDF) をご覧ください。

シーンやトーンを保存する

エディットしたゾーンやトーンや録音データは一時的なものです。電源を切ったり、他のシーンやトーンを選んだりすると消えてしまいます。エディットした内容や録音したデータを残したい場合は、保存操作をしてください。

注意

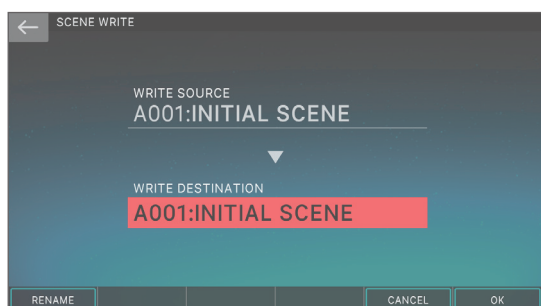
保存操作をすると、保存先にあったデータは上書きされます。

1. [WRITE] ボタンを押します。

WRITE MENU 画面が表示されます。

2. 保存したい項目にタッチします。

例として <SCENE> をタッチすると、SCENE WRITE 画面が表示されます。



3. 名前を変更したい場合は、<Rename> をタッチして、名前を変更します。

名前を変更したら <OK> をタッチしてウィンドウを閉じます。

4. [VALUE] ダイアルまたは [DEC] [INC] ボタンで、保存先を選びます。

5. <OK> にタッチします。

確認のメッセージが表示されます。

中止するときは <CANCEL> にタッチします。

6. <OK> にタッチします。

データが保存されます。

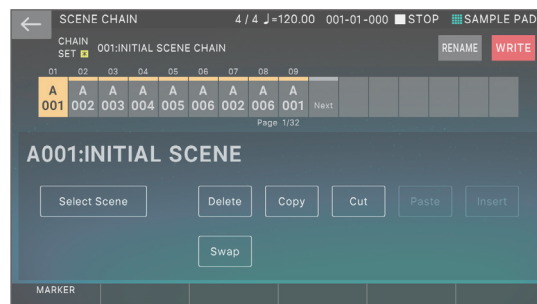
曲の順番にシーンを呼び出す (シーン・チェーン)

ライブで演奏する曲の順番にシーンを呼び出したいときは、シーン・チェーン (SCENE CHAIN) 機能を使います。

シーン・チェーンはシーン自体の番号はそのまま、使いたいシーンだけを自分の好きなように並べ替えることができます。並べたシーンはチェーン・セットとして記憶させることができ、チェーン・セットを変えることでシーンの並びをかえることができます。

1. [SCENE CHAIN] ボタンを押します。

SCENE CHAIN 画面が表示されます。



2. 「CHAIN SET」 名をタッチして、チェーン・セットを切り替えます。

[SHIFT] ボタンを押しながら [▲] [▼] ボタンを押して、チェーン・セットを切り替えることもできます。

チェーン・セットにはシーンの並びを登録することができます。演奏する順番に音色を並べておくくと便利です。

3. トーン・カテゴリー [1] ~ [16] ボタンを押して、シーンを選びます。

画面内に横に並んだ 16 個のシーンがトーン・カテゴリー・ボタン [1] ~ [16] それぞれに対応します。

- 画面内のシーン・アイコンを直接タッチしてシーンを選ぶこともできます。
- シーン・アイコンの左右端にある「◀」「▶」アイコンをタッチすると、「前の」「次の」16 個のシーンを選べるようになります。

サンプラー編

本機では、鍵盤の演奏や、オーディオ機器やマイクなどの入力音を、オーディオ録音（サンプリング）できます。サンプリングされたサンプルは、パッドを押して再生します。

本機には音源で鳴らすことができるマルチサンプル対応サンプラーも搭載されています。

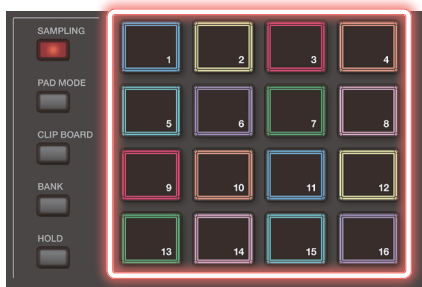
➡ サンプルについて詳しくは、『リファレンス・マニュアル』（PDF）をご覧ください。

パッドを押してサンプルを鳴らす

ここではサンプリングした音を、パッド [1] ～ [16] 使って鳴らす手順を紹介します（サンプル・パッド機能）。

あらかじめ「パッドに便利な機能を割り当てる（PAD MODE）」の手順に従って、パッドの機能に「SAMPLE PAD」を選んでおきます（P.24）。

1. パッド [1] ～ [16] を押します。

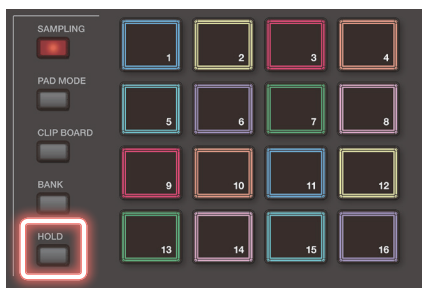


サンプルが再生されます。

複数のパッドを同時に押して再生することもできます。

サンプルを再生し続ける（ホールド）

1. パッドを押している間に [HOLD] ボタンを押します。

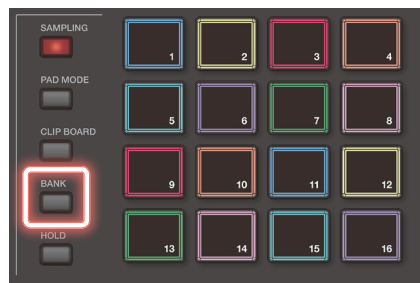


パッドから手を離してもサンプルの再生が続きます。サンプルを停止するときには、もう一度パッドを押します。

バンクを切り替える

サンプルは 16 個単位で 4 つのバンクに割り振られており、バンクを切り替えると各パッドに割り当てられているサンプルも切り替わります。

1. [BANK] ボタンを押します。



2. パッド [1] ～ [4] を押して、バンクを選びます。

サンプルを移動／コピーする

サンプルを別のパッドに移動したりコピーしたりすることができます。

サンプルを移動する

1. 移動したいサンプルがあるパッドを押しながら、[CLIP BOARD] ボタンを押します。



2. [CLIP BOARD] ボタンを押しながら、移動先のパッドを押します。

サンプルが移動します。

※移動先のパッドにサンプルがある場合は、「[Overwrite OK?]>」とメッセージが出ます。上書きする場合は [ENTER] ボタン、キャンセルする場合は [EXIT] ボタンを押します。

音が止まらなくなったときは!!

[HOLD] ボタンを素早く 4 回連続で押してください。パッドで鳴らしているすべての音を止めることができます。

English

日本語

Deutsch

Français

Italiano

Español

Português

Nederlands

サンプルをコピーする

1. コピーしたいサンプルがあるパッドと [SHIFT] ボタンを押しながら、[CLIP BOARD] ボタンを押します。
2. [CLIP BOARD] ボタンを押しながら、コピー先のパッドを押します。

サンプルがコピーされます。

※コピー先のパッドにサンプルがある場合は、「Overwrite OK?」とメッセージが出ます。上書きする場合は [ENTER] ボタン、キャンセルする場合は [EXIT] ボタンを押します。

パッドに便利な機能を割り当てる (PAD MODE)

16 個のパッドを使って、シーンを選ぶ、サンプルを鳴らすなど、いろいろな機能を割り当てることができます。

サンプルの再生やシーンの選択以外にも、便利な機能をパッドに割り当てることができます。

1. [PAD MODE] ボタンを押します。
2. パッド [1] ~ [16] を押して、機能を選びます。

選んだ機能に応じて、設定画面が表示されます。

メモ

各機能について、詳しくは『リファレンス・マニュアル』(PDF) をご覧ください。

SAMPLING

機能	説明
To Pad	サンプリングした音をパッドに割り当てます。
To Keyboard	サンプリングした音を鍵盤に割り当てます。
To Storage	サンプリングした音を本体メモリーに保存します。

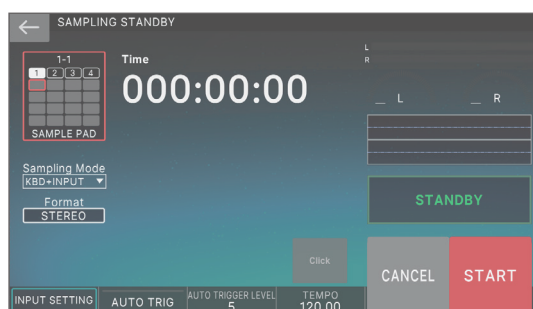
IMPORT

機能	説明
To Pad	インポートしたサンプルをパッドに割り当てます。
To Keyboard	インポートしたサンプルを鍵盤に割り当てます。
To Multisample	インポートしたサンプルをマルチ・サンプルとして本体メモリーに保存します。

→ インポートについて詳しくは、『リファレンス・マニュアル』(PDF) をご覧ください。

3. SAMPLING の中の機能にタッチします。

SAMPLING STANDBY 画面が表示されます。



4. <SAMPLE PAD> ボタンにサンプリングされる SAMPLE PAD のバンクと番号が表示されているのを確認します。

5. SAMPLE PAD のバンクと番号を変更したい場合は、<SAMPLE PAD> ボタンにタッチします。

SAMPLING DESTINATION (PAD) 画面で、変更したい SAMPLE バンクと番号を指定します。

メモ

サンプリングしたいパッドにすでにサンプルがある場合は、「Overwrite OK?」とメッセージが出ます。上書きする場合は [ENTER] ボタン、キャンセルする場合は [EXIT] ボタンを押します。

6. <Sampling Mode> にタッチして、サンプリング・モードを選びます。

パラメーター	説明
KBD+INPUT	鍵盤の演奏と MIC/LINE INPUT 端子、USB COMPUTER 端子からの入力音をサンプリングします。
KBD	鍵盤の演奏をサンプリングします。
INPUT	MIC/LINE INPUT 端子と USB COMPUTER 端子からの入力音をサンプリングします。 ※ INPUT を使用する場合は、INPUT SETTING の設定で、AUDIO IN を有効にする必要があります。

サンプリングする

本機は、以下の音をサンプリングしてサンプルを作ることができます。

- 鍵盤の演奏
- MIC/LINE INPUT 端子からの入力音（オーディオ機器、マイク）
- USB COMPUTER 端子からの入力音

1. 必要に応じて、MIC/LINE INPUT 端子にサンプリングする機器（オーディオ機器やマイク）を接続します。

メモ

- オーディオ機器をステレオでサンプリングするときには、Lch を MIC/LINE INPUT L/MONO 端子、Rch を MIC/LINE INPUT R 端子に接続してください。
- マイク入力をサンプリングするときには、MIC/LINE INPUT MIC 端子にダイナミック・マイクを接続してください。

2. [SAMPLING] ボタンを押して、点灯させます。

SAMPLING MENU が表示されます。

7. サンプリングする音量を調節します。

レベル・メーターが振り切れない範囲で、なるべく大きくなるように音量を調節します。

サンプリングする機器	説明
オーディオ機器	オーディオ機器側で調節します。
マイク	リア・パネルの LEVEL つまみで調節します。
USB COMPUTER	USB Audio Input Level で調節します (P.33)。



8. サンプリングを設定します。

画面内のパラメーターをタッチしてオン/オフ、または選んで [VALUE] ダイアルで設定値を変更します。

パラメーター	設定値	説明
Format	MONO	1つの波形としてサンプリングします。 1本のマイクを使い、モノでサンプリングするときに選びます。
	STEREO	ステレオで入力している場合は、LとRの音をミックスしてサンプリングします。
AUTO TRIGGER LEVEL	0 ~ 15	AUTO TRIG を「ON」に設定すると、ここで設定した値以上の信号が入力されたらサンプリングが始まります。
AUTO TRIGGER	OFF、ON	「ON」にすると、AUTO TRIGGER LEVEL の設定以上の信号が入力されたらサンプリングが始まります。 「OFF」に設定すると、< START > をタッチするとすぐにサンプリングが始まります。

9. 本機に接続した機器を鳴らし、サンプリングを開始するタイミングで< START >にタッチします。

サンプリング中は「NOW SAMPLING!」と表示されます。

AUTO TRIGGER が「OFF」のとき

< START >をタッチすると、サンプリングが始まります。
本機に接続した機器を鳴らします。

AUTO TRIGGER が「ON」のとき

本機に接続した機器を鳴らして、AUTO TRIGGER LEVEL で設定した値以上の信号が入力されると、サンプリングが始まります。

10. サンプリングを終了するタイミングで、< STOP >にタッチします。

サンプリングが停止し、サンプリング先のパッドへ保存されます。

メモ

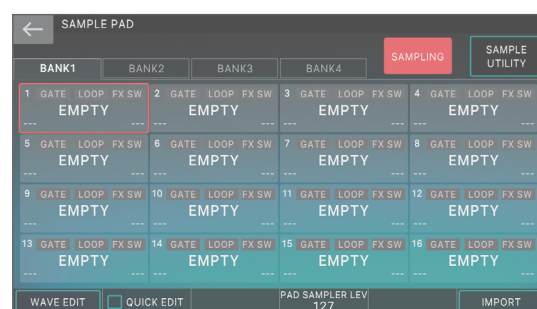
- サンプルのデータは、本機のサンプル・メモリーに保存されます。
- パソコンのオーディオ・ファイルのデータをサンプルとして読み込むことができます。詳しくは『リファレンス・マニュアル』(PDF)をご覧ください。

サンプルを削除する (Delete)

サンプルを削除します。

1. [SHIFT] ボタンを押しながら、[PAD MODE] ボタンを押します。

SAMPLE PAD 画面が表示されます。



2. パッドを押して、削除するサンプルを選びます。

3. < SAMPLE UTILITY >にタッチします。

4. < DELETE >にタッチします。

確認のメッセージが表示されます。

中止するときは< CANCEL >にタッチします。

5. < OK >にタッチします。

サンプルが削除されます。

入力音量を設定する (Input Setting)

MIC/LINE INPUT 端子に接続した機器の入力音量を設定します。

1. SAMPLING STANDBY 画面 (P.24) で、< INPUT SETTING >にタッチします。

2. カーソルを目的のパラメーターに合わせて、設定値を変更します。

メモ

USB COMPUTER 端子に接続した機器の入力音量は、「USB オーディオ入力の調整」(P.33) をご覧ください。

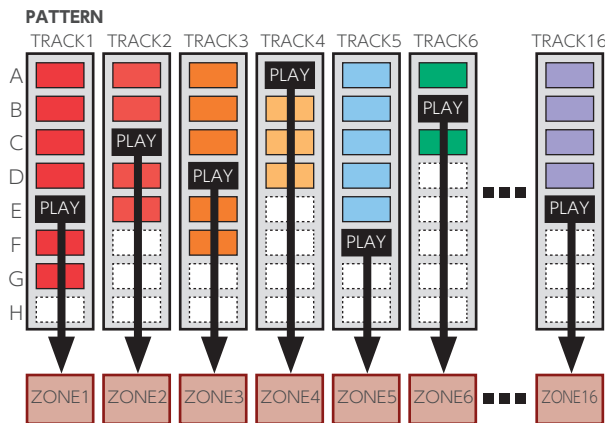
シーケンサー編

シーケンサーの構成について

パターン

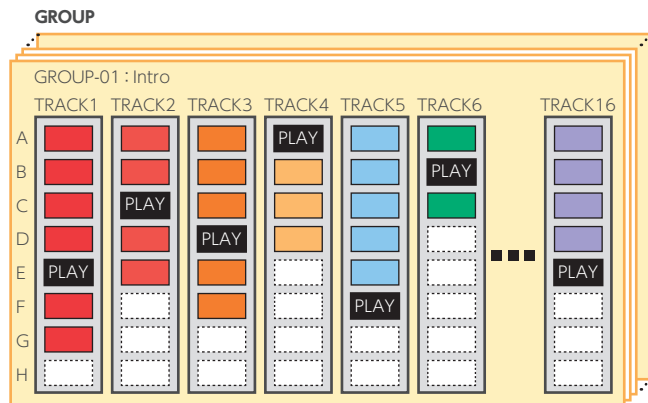
本機のシーケンサーは、各ゾーンと対になった、16 個のトラック (TRACK) に録音、再生をします。

各トラックはそれぞれ最大 8 個のパターン (PATTERN) を持つことができます。トラックごとに、パリエーションを切り替えながら再生することができます。1 つのパターンは最大 32 小節の長さを持ち、各パターンに設定された長さでループ再生されます。



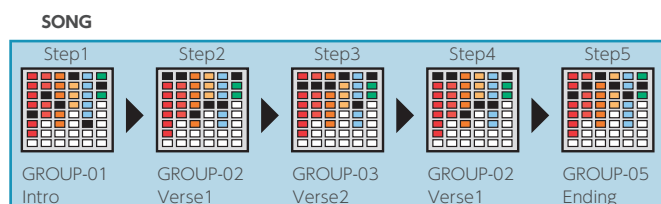
グループ

各トラックに作成したパターンの組み合わせをグループと呼びます。「Intro」、「Verse」、「Fill」といったように、曲の展開ごとにグループを作成しておくことができます。



ソング

作成したグループを曲の構成に従って順番に並べたものを、ソングと呼びます。各グループ単位や、ソング全体で繰り返し (LOOP) の設定をすることができます。



メモ

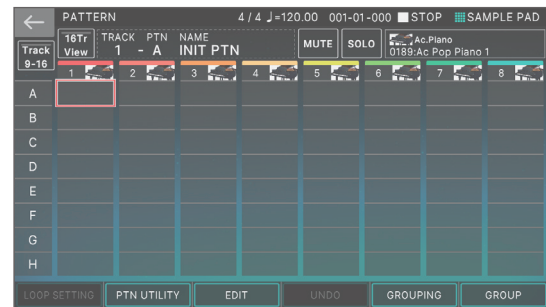
パターン、グループ、ソングはすべてシーンごとに保存されます。

シーケンサーを再生する

パターンの再生

1. シーンを選びます。
2. [PATTERN] ボタンを押します。

PATTERN 画面が表示されます。



フレーズが録音されている箱 (パターン・ボックス) は、カラーで表示されます。

各トラックの録音済みのパターン・ボックスを長くタッチすると、パターン・ボックスがハイライト表示に変わります。これは再生スタンバイを意味し [▶PLAY] ボタンを押したときに再生されます。再生スタンバイにできるパターン・ボックスは各トラックに 1 つだけです。



3. [▶PLAY] ボタンを押します。

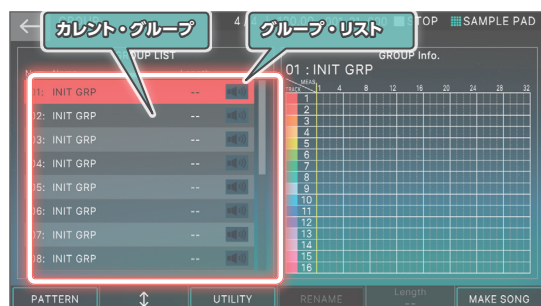
各トラックの再生スタンバイにしたパターンが再生されます。

- 再生されていないパターン・ボックスにタッチすると、タッチしたパターンが再生されます。
 - 画面内の色の付いているパターン・ボックスを直接タッチすることで、トラックごとにパターンを切り替えることができます。
4. [■STOP] ボタンを押して、すべてのトラックのパターン再生を停止させます。
- 再生中のパターン・ボックスにタッチすると、タッチしたパターンだけを停止できます。
 - 別のパターンを再生しているときに、パターン切り替えや停止／再生をすると、Change Timing パラメーターの設定に合わせて自動的に停止／再生します。

グループの再生

1. シーンを選びます。
2. [GROUP] ボタンを押します。

GROUP 画面が表示されます。

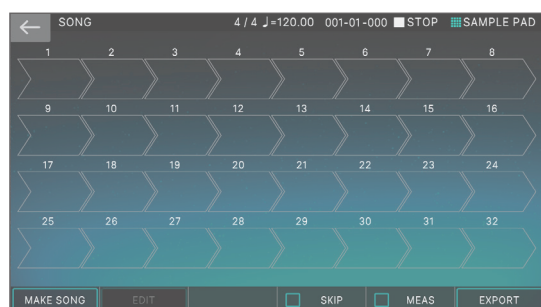


- 現在選ばれているグループ（カレント・グループ）はカーソルで示されます。
 - 画面右側には、各トラックの 패턴の長さが表示され、つまみ [E5] でグループの小節数を設定することができます。
3. [▶PLAY] ボタンを押します。
カレント・グループが再生されます。
 4. 再生を停止させるときは [■STOP] ボタンを押します。
 5. 別のグループを選ぶときは、直接グループ名をタッチして選びます。
[E2] つまみで選ぶこともできます。

ソングの再生

1. シーンを選びます。
2. [SONG] ボタンを押します。

SONG 画面が表示されます。



番号の付いた箱（グループ・ボックス）が並んでいます。各グループ・ボックス内には、グループ番号、グループ・ネーム、グループ回数などの情報が表示されます。空のグループ・ボックスには何も表示されません。

3. [▶PLAY] ボタンを押します。
ソングが再生され、番号順にグループが再生されます。現在再生中のグループ（カレント・グループ）は緑色のグループ・ボックスで表示されます。
4. [■STOP] ボタンを押すと再生を停止します。

パターンを録音する

パターンの録音方法には、次の 3 つの方法があります。

録音方法	説明
リアルタイム録音 (Realtime REC)	鍵盤の演奏やコントローラーの操作をそのまま録音して、パターンを作成します。
ステップ録音 (Step Rec)	鍵盤の演奏をステップごとに順番に録音して、パターンを作成します。
TR-REC	楽器（インスト）ごとに、音を鳴らすタイミングをステップ上の好きな位置にセットしていく方法です。ドラム・パターンの作成に適しています。

録音前に以下の手順ですでに入っているパターンを削除しておきましょう。

1. シーンを選びます。

注意

パターンを作成したあと、シーンを保存せずに他のシーンに切り替えたり、電源をオフにしたりすると、作成したデータは消えてしまいます。

2. [PATTERN] ボタンを押します。
PATTERN 画面が表示されます。
3. <PTN UTILITY>にタッチします。
PATTERN UTILITY 画面が表示されます。
4. <DELETE>にタッチします。
DELETE MENU が表示されます。
5. <DELETE ALL>にタッチします。
確認のメッセージが表示されます。
中止するときには、<CANCEL>にタッチします。
6. 実行するときは、<OK>にタッチします。すべてのパターンが削除されます。

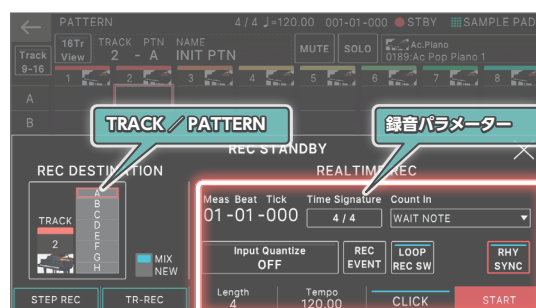
注意

削除したパターンは元に戻せません。

リアルタイム録音 (Real Time REC)

1. [●REC] ボタンを押します。
REC STANDBY 画面が表示されます。
2. 録音を設定します。

画面内の各パラメーターを直接タッチして選ぶか、または [VALUE] ダイアルで値を設定します。



録音パラメーター	説明
Count In	録音開始時にカウント・インを付けます。 録音開始前（停止中）に設定します。
Time Signature	拍子を設定します。すべてのパターンが空のときに設定できます。
Input Quantize	録音時にかけるクオンタイズを設定します。
RHY SYNC	録音開始と同時に、現在選ばれているリズム・パターンを自動的に再生して録音するか（ON）、録音しないか（OFF）を設定します。
LOOP REC SW	ON : Length の小節の長さまで録音したあとも、録音状態を維持します。 OFF : Length の小節の長さまで録音したとき、録音状態から再生状態に移行します。
REC EVENT	録音する演奏データを選んでリアルタイム・レコーディングすることができます。
CLICK	クリック（メトロノーム）をオン／オフします。
Tempo	テンポを設定します。
Length	パターンの長さを設定します。
NEW/MIX	新規に録音するか、オーバーダブで録音するかを設定します。

< TRACK / PATTERN > をタッチすると、PATTERN 画面に移動するので、この画面で録音するトラック（1～16）とパターン（A～H）を選びます。

録音先のトラックを変えることで、トラックが鳴らすゾーンも連動して動きます。

（例）Track2:Zone2（Bass）→ Track10:Zone10（Drum）
PATTERN 画面でトラック、パターンを選んだら、再度 [REC] ボタンを押します。

3. [▶PLAY] ボタンを押して録音を開始します。

< START > をタッチして録音を開始することもできます。

4. 鍵盤を演奏します。

つまみやコントローラーの操作も記録されます。

5. [■STOP] ボタンを押して、録音を終了させます。

録音が終わったら、必要に応じて手順 1～5 の操作を繰り返して、同じトラックにパターンのバリエーションを録音したり、別のトラックの録音をしたりします。

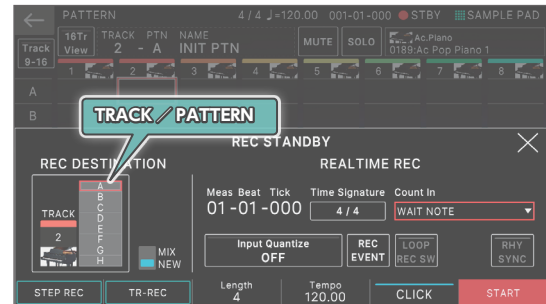
次のセクションでグループやソングの作成をする際に、違いが分かりやすいように数トラックに分けて、いくつかのパターンを作成しておくといでしょう。

ステップ録音（Step REC）

1. [●REC] ボタンを押します。

REC STANDBY 画面が表示されます。

2. < TRACK / PATTERN > で録音するトラックを確認します。



< TRACK / PATTERN > をタッチすると、PATTERN 画面に移動するので、この画面で録音するトラック（1～16）とパターン（A～H）を選びます。

録音先のトラックを変えることで、トラックが鳴らすゾーンも連動して動きます。

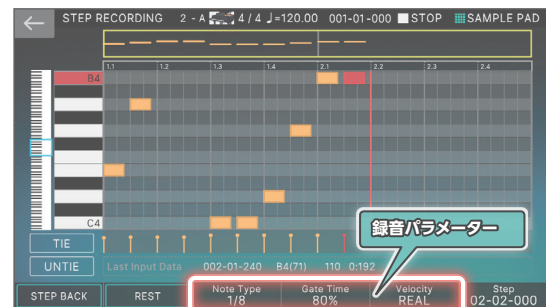
（例）Track2:Zone2（Bass）→ Track10:Zone10（Drum）
PATTERN 画面でトラック、パターンを選んだら、再度 [REC] ボタンを押します。

3. < STEP REC > にタッチします。

STEP RECORDING 画面が表示されます。

4. 入力する音符を設定します。

画面内の各録音パラメーターを設定します。



録音パラメーター	説明
Note Type	入力する音符の種類を設定します。
Gate Time	ゲート・タイムを設定します。
Velocity	ペロシティーを設定します。

5. 鍵盤を 1 回弾きます。

ステップ 1 に演奏が記録され、自動的にステップ・タイムの分だけ、画面内のステップ・ポジションが進みます。

複数の音を弾くと、和音の録音ができます。

6. 手順 6 の操作を繰り返し、ステップごとに録音します。

7. [EXIT] ボタンを押して録音を終了させます。

メモ

- ・ 休符を入れたいときは、＜ REST ＞にタッチします。
- ・ ステップのデータを消したいときは、＜ STEP BACK ＞にタッチします。
- ・ タイを入れたいときは、＜ TIE ＞にタッチします。
- ・ 直前に入れたタイを取り消したいときは、＜ UNTIE ＞にタッチします。
- ・ 録音する小節の位置を変更したいときは、つまみ [E6] を使います。
- ・ 画面左端の鍵盤スクロール・バーを使うと表示される音域が、上下に移動します。
- ・ 画面上部のピアノロール・タイプのスクロール・バーを使うと表示エリアを小節方向に移動できます。

ステップごとに音を鳴らすタイミングをセットする (TR-REC)

TR-REC とは

TR-REC はトーン・カテゴリー・ボタン [1] ～ [16] を使って、楽器 (インスト) ごとに音を鳴らすタイミングをセットしていく方法です。

自分でセットしたリズムを聴きながら操作できます。

たとえば、図 1 のようなドラム・パターンは、図 2 のようにセットします。

図 1



図 2

Step Number	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16
Closed Hi-Hat	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
Snare Drum	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
Bass Drum	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■

■ ボタン点灯
■ ボタン消灯

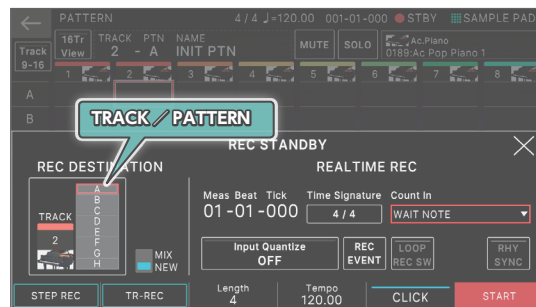
ドラム・キットの場合、鍵盤で楽器 (インスト) を鳴らすとトーン・カテゴリー・ボタン [1] ～ [16] が点灯/消灯して、どのステップで発音するのかを確認することができます。

トーン・カテゴリー・ボタン [1] ～ [16] を押すと点灯/消灯が切り替わり、楽器 (インスト) の発音設定を変更することができます。

1. [●REC] ボタンを押します。

REC STANDBY 画面が表示されます。

2. < TRACK / PATTERN >で録音するトラックを確認します。



< TRACK / PATTERN >をタッチすると、PATTERN 画面に移動するので、この画面で録音するトラック (1 ～ 16) とパターン (A ～ H) を選びます。

PATTERN 画面でトラック、パターンを選んだら、再度 [REC] ボタンを押します。

3. < TR-REC >にタッチします。

TR-REC 画面が表示されます。[TR-REC] ボタンが点灯し、トーン・カテゴリー・ボタン [1] ～ [16] が TR-REC のステップ・ボタンの機能に代わります。

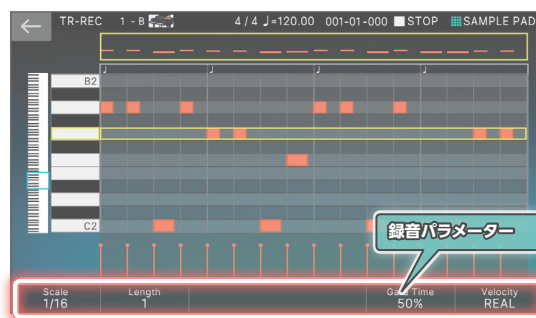
メモ

[REC] ボタンの代わりに [TR-REC] ボタンを押して TR-REC 機能にすることもできます。

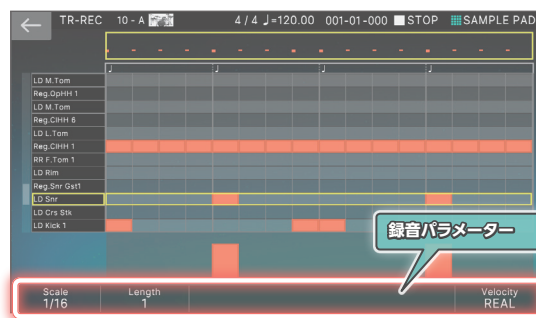
4. TR-REC を設定します。

画面内の各録音パラメーターを設定します。

トーン



ドラム・キット

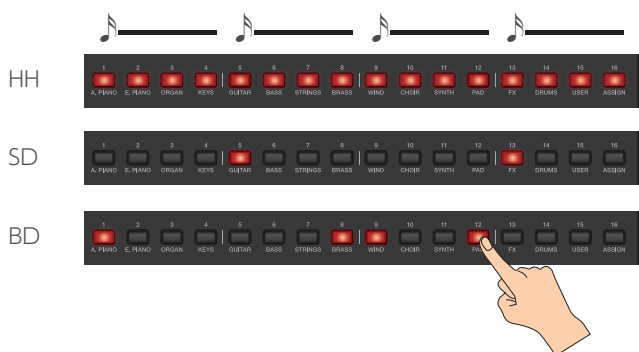


録音パラメーター	説明
Scale	1 ステップの長さを設定します。
Gate	ゲート・タイムを設定します。
Velocity	ペロシティーを設定します。

5. 鍵盤で録音する楽器（インスト）を指定します（ドラム・キットのみ）。

鍵盤で押さえた音高が変わると、楽器（インスト）が変わります。
ドラム・キット以外のトーンでは鍵盤で入力するピッチを指定します。

6. トーン・カテゴリー [1] ～ [16] ボタンを押して、音を鳴らしたいステップを点灯させます。



画面内の対応したステップ位置に音が入力されます。

音を消したい場合は、点灯しているトーン・カテゴリー [1] ～ [16] ボタンを押して消灯させます。

[▶PLAY] ボタンを押してパターンを再生させながら、入力することもできます。

7. 点灯している [TR-REC] ボタンを押して、録音を終了させます。

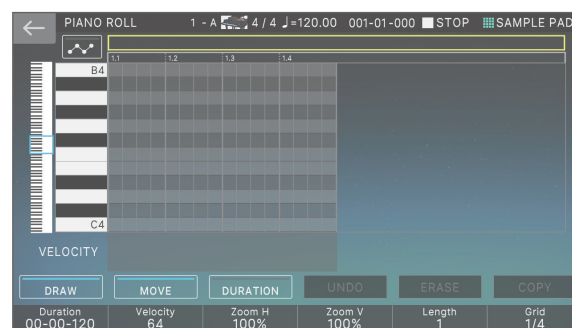
メモ

- リアルタイム録音、ステップ録音中に TR-REC 状態にすることはできません。
- [SHIFT] ボタンを押しながら、トーン・カテゴリー [1] ～ [4] ボタンを押して、入力位置を変更できます（スケールの設定によっては [SHIFT] ボタン+トーン・カテゴリー・ボタン [1] ～ [8]）。
- 画面左側の鍵盤（インスト）部分をスクロールさせると、表示エリアを上下方向に移動できます。
- 画面上部のピアノロール・タイプのスクロール・バーを使うと、表示エリアを小節方向に移動できます。

エディット画面について

ピアノ・ロール画面 (Piano Roll Edit)

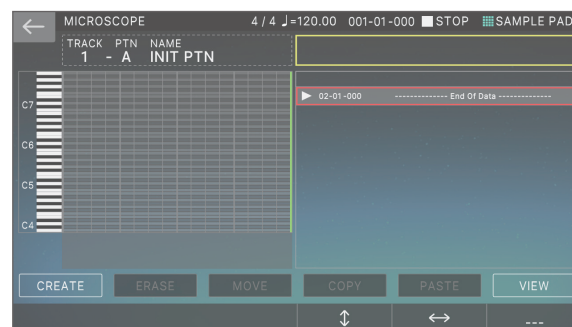
ピアノ・ロール画面では、楽譜の音の高さ、長さ、タイミングを視覚的に分かりやすく鍵盤の画面に表しています。



→『リファレンス・マニュアル』（PDF）

マイクروسコープ機能 (Microscope)

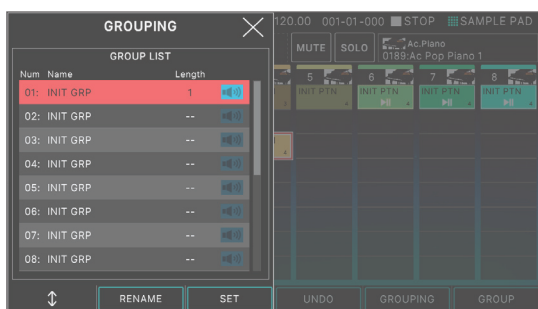
マイクروسコープでは、パターンに記録されている演奏情報を 1 つずつエディットすることができます。



→『リファレンス・マニュアル』（PDF）

グループの作成

1. **[PATTERN]** ボタンを押します。
PATTERN 画面が表示されます。
2. 各トラックのパターンを選び、組み合わせを決めます。
3. **< GROUPING >** にタッチします。
GROUP LIST が表示されます。



4. セットしたい番号にカーソルを合わせます。
5. **<SET>** にタッチします。
確認メッセージが表示されます。
中止するときは、**<CANCEL>** にタッチします。
6. 実行するときは、**<OK>** にタッチします。
現在の各トラックの、パターンの組み合わせがグループとして登録されます。
7. 必要に応じて、手順 2～6 を繰り返し、グループを作成します。
< RENAME > をタッチすると、作成したグループに名前を付けることができます。

ソングの作成

1. **[GROUP]** ボタンを押します。
GROUP 画面が表示されます。
2. **< MAKE SONG >** にタッチします。
MAKE SONG 画面が表示されます。



3. 画面左側の GROUP LIST から 1 番目に再生したいグループの**< ADD >**にタッチします。
右側の SONG 欄にタッチしたグループが追加され、入力位置が 1 つ進みます。

メモ

- **< ADD/REPLACE >** をタッチして REPLACE で入力すると、入力位置のグループを置き換えます。
- 最大入力数は 32 グループです。
- **< BACK DEL >** をタッチすると、入力位置のグループを削除して、入力位置が 1 つ戻ります。

4. 必要に応じて、手順 3 を繰り返し、ソングを作成します。

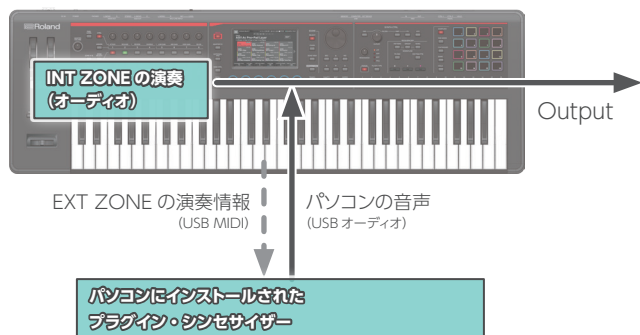
注意

グループやソングを作成したあと、シーンを保存せずに他のシーンに切り替えたり、電源をオフにしたりすると、作成したデータは消えてしまいます。

コントロール編

プラグイン・シンセを使ってライブ演奏する

パソコンにインストールされているプラグイン・シンセサイザーを、本機で演奏することができます。



パソコンと接続する

USB ドライバーは、パソコン上のソフトウェアと本機との間でデータをやりとりするソフトウェアです。

本機パソコンに接続してお使いになるには、USB ドライバーのインストールが必要です。

メモ

USB ドライバーのダウンロードとインストール手順について詳しくは、ローランドのホームページをご覧ください。

<https://www.roland.com/jp/support/>

USB ドライバーを設定する

パソコンと接続するときに、使用する USB ドライバーを設定します。

1. [MENU] ボタンを押します。
2. <SYSTEM> にタッチします。
3. <GENERAL> タブにタッチします。
4. [USB Driver] を選び、[VENDOR] に設定します。

パラメーター	設定値	説明
USB Driver	VENDOR	ローランドのホームページからダウンロードした USB ドライバーをお使いのときに選びます。
	GENERIC	パソコンに標準添付の USB ドライバーをお使いのときに選びます。 ※ MIDI のみ使えます。

5. [WRITE] ボタンを押して SYSTEM 設定を保存します。
6. 本機の電源を入れ直します。

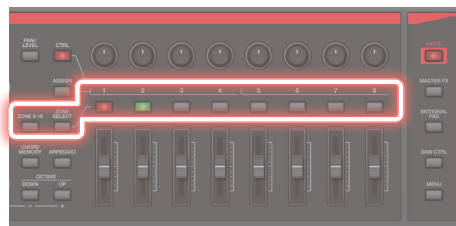
外部 MIDI 機器をコントロールする (EXT MIDI OUT)

MIDI OUT 端子、USB MIDI OUT から、本体のつまみ操作や鍵盤の情報を MIDI メッセージとして出力できます。

特定のゾーンを「EXT」にすることで、そのゾーンを外部 MIDI 機器用のゾーンとして使うことができます。

1. ZONE SELECT ボタンを消灯させてから、MIDI 出力させたいゾーンの ZONE SELECT [1] ~ [8] ボタンを押します。

ゾーン 9 ~ 16 を選ぶときは、[ZONE 9-16] ボタンでグループを切り替えてから、ZONE SELECT [1] ~ [8] ボタンを押します。



2. 選んだゾーンの ZONE INT/EXT [1] ~ [8] ボタンを押して、緑点灯させます。

緑色になっていない場合は、[SHIFT] ボタンを押しながら、対象の ZONE INT/EXT ボタンを押して緑点灯 (EXT 設定) させます。

緑点灯 (EXT 設定) のときは、MIDI メッセージを出力します。

複数のゾーンの ZONE SELECT [1] ~ [8] ボタンが点灯しているときは、ZONE SELECT ボタンで、指定されたゾーン (カレント・ゾーン) との組み合わせで外部音源に MIDI 出力するかどうかが決まります (P.17)。

メモ

ZONE INT/EXT Control を Advanced に設定すると拡張された設定もできます。

- 「ZONE INT/EXT ボタンを設定する (Zone Int/Ext Control)」 (P.33)
- 詳しくは『リファレンス・マニュアル』 (PDF) をご覧ください。

ボタンの状態	対象がカレント・ゾーンの場合	対象がカレント・ゾーンではない場合
消灯 (COMMON)	BASIC 鍵盤を弾くと、内蔵音源、外部音源共に鳴ります。	鍵盤を弾いても、内蔵音源、外部音源共に鳴りません。
	ADVANCED すべてのゾーンの ZONE INT/EXT ボタンがオフ状態 (消灯) のときのみ、鍵盤を弾くと、内蔵音源、外部音源共に鳴ります。	内蔵シーケンサーや外部からの MIDI データで内蔵音源を鳴らすことはできません。
赤点灯 (INT)	BASIC 鍵盤を弾くと、内蔵音源が鳴ります。	他のカレント・ゾーンの ZONE INT/EXT ボタンがオン状態 (赤、または緑に点灯) のときのみ、鍵盤を弾くと、内蔵音源が鳴ります。
	ADVANCED 鍵盤を弾くと、内蔵音源が鳴ります。	

ボタンの状態	対象がカレント・ゾーンの場合	対象がカレント・ゾーンではない場合
緑点灯 (EXT)	BASIC 鍵盤を弾くと、外部音源が鳴ります。	他のカレント・ゾーンの ZONE INT/EXT ボタンがオン状態（赤、または緑に点灯）のときのみ、鍵盤を弾くと、外部音源が鳴ります。
	ADVANCED 鍵盤を弾くと、外部音源が鳴ります。	
黄点灯 (BOTH) ADVANCED のみ	ADVANCED 鍵盤を弾くと、内蔵音源、外部音源共に鳴ります。	
オレンジ点灯 (MUTE)	音源がミュートされた状態です。内蔵音源は鳴りません。 直前の状態が緑点灯のときは、外部音源が鳴ります。	

3. 目的に応じて [PAN/LEVEL] ボタン、[CTRL] ボタン、[ASSIGN] ボタンのいずれかを押します。
4. コントロールつまみ [1] ～ [8]、スライダー [1] ～ [8] を操作すると、手順 3 で押したボタンに応じて、MIDI 情報を出力します。

メモ

- ZONE EDIT (P.20) で、詳細設定をすることができます。
- 設定した内容はシーンの設定として保存できます。「シーンを保存する」(P.22)

USB オーディオを使う

USB オーディオを入力する

USB 接続したパソコンなどの機器から本機にオーディオを入力して、さらにオーディオ入力レベルを調節します。

1. [MENU] ボタンを押します。
2. <SYSTEM> にタッチします。
3. <USB> タブにタッチします。
USB AUDIO メニューが表示されます。
4. カーソルを「USB Audio Input Switch」に合わせ、[VALUE] ダイアルで値を「ON」にします。
接続した機器からのオーディオ入力がオンになります。
5. カーソルを「USB Audio Input Volume」に合わせ、[VALUE] ダイアルで入力レベルを調節します。

USB オーディオを出力する

USB 接続したパソコンなどの機器に、本機のオーディオを出力して、さらにオーディオ出力レベルを調節します。

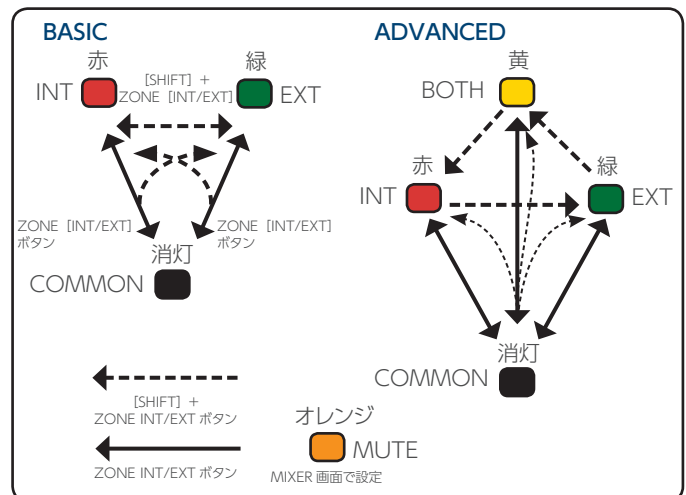
1. [MENU] ボタンを押します。
2. <SYSTEM> にタッチします。
3. <USB> タブにタッチします。
USB AUDIO メニューが表示されます。
4. カーソルを「USB Audio Output Switch」に合わせ、[VALUE] ダイアルで値を「ON」にします。
接続した機器へのオーディオ出力がオンになります。
5. カーソルを「USB Audio Output Volume」に合わせ、[VALUE] ダイアルで出力レベルを調節します。

ZONE INT/EXT ボタンを設定する (Zone Int/Ext Control)

ZONE INT/EXT ボタンのはたらきを設定します。

1. [MENU] ボタンを押します。
2. <SYSTEM> にタッチします。
3. Zone Int/Ext Control パラメーターを選び、設定を変更します。

パラメーター	設定値	説明
Zone Int/Ext Control	BASIC	各 ZONE INT/EXT ボタンは従来通りの動きをします。
	ADVANCED	各 ZONE INT/EXT ボタンを押したときの動作に、消灯、赤 (INT)、緑 (EXT)、オレンジ (MUTE) に加えて、黄 (BOTH) の状態が追加されます。黄 (BOTH) のときは、内蔵音源／外部音源両方が鳴ります。



各機能の詳細設定をする (Menu)

1. **[MENU] ボタンを押します。**
MENU 画面が表示されます。
2. **画面内の目的のメニュー欄にタッチします。**
3. **選んだメニューに応じて、設定を変更します。**

メモ

各メニューについて、詳しくは『リファレンス・マニュアル』(PDF)をご覧ください。

メニュー	説明
TONE EDIT	トーンのエディットをします (P.20)。
EFFECTS EDIT	エフェクトのエディットをします (P.21)。
ZONE EDIT	ゾーンのエディットをします (P.20)。
SCENE EDIT	シーン全体の設定をします (P.17)。
MIXER	パンや音量バランスを調節することができます。
SYSTEM	システム設定をします。
UTILITY	データのバックアップや本体の初期化をします (P.34)。

ユーザー・データをバックアップする (Backup / Restore)

本機に記憶されているすべての設定を、USB メモリーに保存したり (バックアップ)、本体に書き戻したり (リストア) することができます。

USB メモリーにバックアップする (Backup)

注意

USB メモリーに保存されているバックアップ・データと同じファイル名でバックアップすると、データは上書きされます。新たにバックアップするときは、別の名前を付けてください。

1. **[MENU] ボタンを押します。**
MENU 画面が表示されます。
2. **< UTILITY > にタッチします。**
UTILITY 画面が表示されます。
3. **< BACKUP > にタッチします。**
4. **バックアップするファイルの名前を変更したい場合は、< RENAME > をタッチして名前を付けます (P.14)。**
名前を変更したら < OK > をタッチしてウィンドウを閉じます。
5. **< OK > にタッチします。**
確認のメッセージが表示されます。
中止するときは、< CANCEL > にタッチします。
6. **実行するときは、< OK > にタッチします。**

注意

読み込み中や書き込み中は、絶対に電源を切ったり、外部メモリーを抜いたりしないでください。

バックアップしたデータを本体に戻す (Restore)

注意

リストア操作をすると、現在本機に保存されているすべての設定は消えてしまいます。現在の設定を残しておきたいときは、別の名前を付けてバックアップしてください。

1. **UTILITY 画面で < RESTORE > にタッチします。**
2. **リストアするファイルをタッチして選び、< RESTORE > にタッチします。**
確認のメッセージが表示されます。
中止するときは、< CANCEL > にタッチします。
3. **実行するときは、< OK > にタッチします。**

注意

読み込み中や書き込み中は、絶対に電源を切ったり、外部メモリーを抜いたりしないでください。

4. **電源を入れ直します (P.12)。**

工場出荷時の設定に戻す (Factory Reset)

本機に記憶した設定を、工場出荷時の設定に戻すことができます (ファクトリー・リセット)。

注意

ファクトリー・リセットをすると、本機に保存されているデータは、すべて失われてしまいます。データを残しておきたいときは、USB メモリーにバックアップしてください。

1. **MENU 画面で < UTILITY > にタッチします。**
2. **< FACTORY RESET > にタッチします。**
確認のメッセージが表示されます。
中止するときは、< CANCEL > にタッチします。
3. **実行するときは、< OK > にタッチします。**

注意

ファクトリー・リセット中は、絶対に電源を切らないでください。

主な仕様

	FANTOM-06	FANTOM-07	FANTOM-08
鍵盤	61 鍵 (ペロシティー対応)	76 鍵 (ペロシティー対応)	88 鍵 (PHA-4 スタンダード鍵盤 : エスケープメント付き、象牙調)
電源	AC アダプター		
消費電流	1,300mA		
外形寸法	1,006 (W) × 323 (D) × 95 (H) mm	1,218 (W) × 323 (D) × 95 (H) mm	1,393 (W) × 354 (D) × 138 (H) mm
質量	6.0Kg	7.0Kg	14.8Kg
付属品	取扱説明書、AC アダプター、保証書		
別売品	KS-10Z、KS-12、KS-20X		KS-G8B、KS-10Z、KS-12、KS-20X
	DP シリーズ、RPU-3、EV-5		

※本書は、発行時点での製品仕様を説明しています。最新情報についてはローランド・ホームページをご覧ください。



お問い合わせの窓口



ホームページをご覧ください

Q&A、チャットサポート、メール、電話でのお問い合わせ

Roland製品

https://roland.cm/roland_support



BOSS製品

https://roland.cm/boss_support

